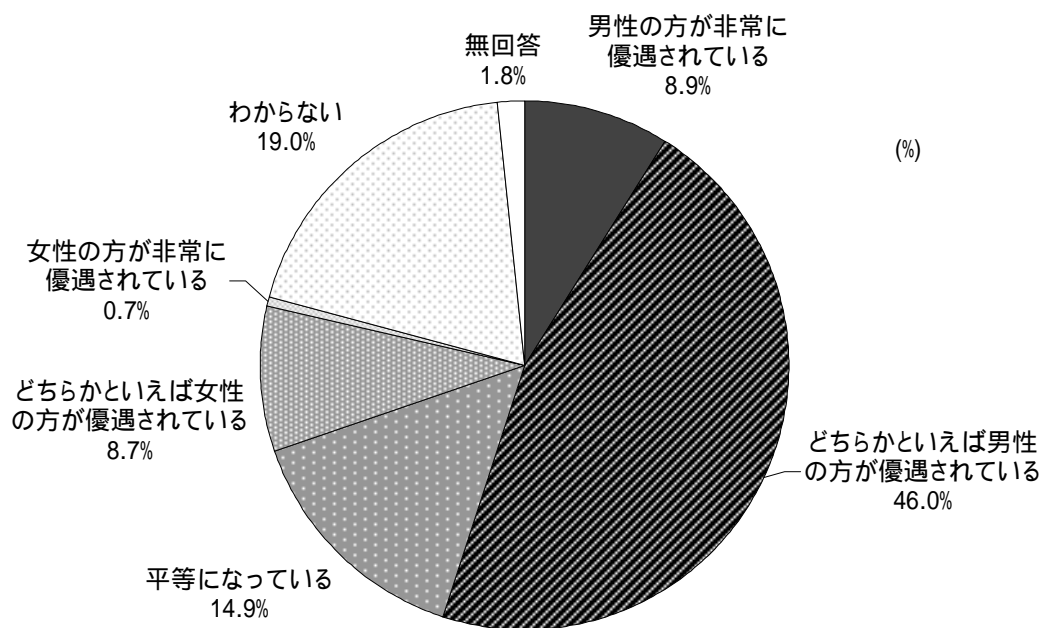


## 12. 男女平等のまち・かわさきの実現度合い

### (1) 男女平等に対する意識

問51 あなたは、社会全体でみた場合には、男女は平等になっていると思いますか。  
(1つだけ)

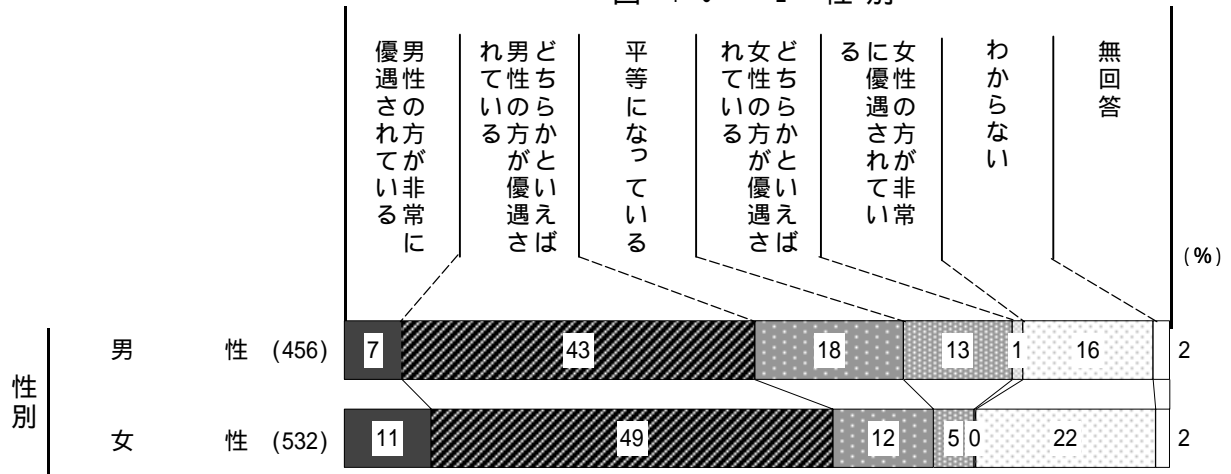
図 46 - 1



【n=988】

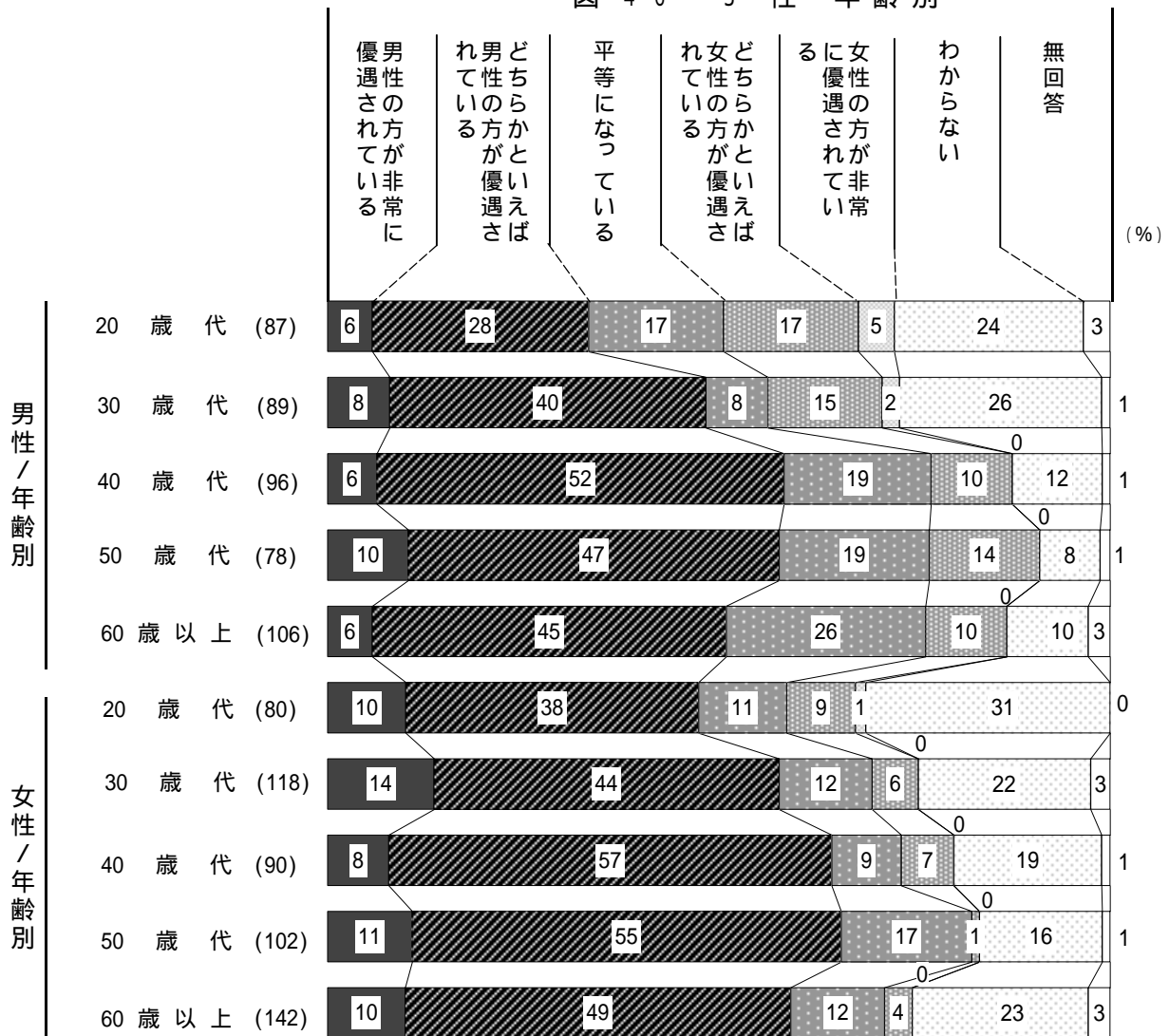
男女平等に対する意識については、「どちらかといえば男性の方が優遇されている」が46.0%で最も多く、これに「男性の方が非常に優遇されている」(8.9%)を合わせた 男性優遇派 は54.9%である。一方、「女性の方が非常に優遇されている」(0.7%)と「どちらかといえば女性の方が優遇されている」(8.7%)を合わせた 女性優遇派 は9.4%である。

図 4 6 - 2 性別



性別では、男女ともに 男性優遇派 の割合が 女性優遇派 よりも多い。また、女性の方が男性より 男性優遇派 の割合が多くなっている。

図 4 6 - 3 性・年齢別

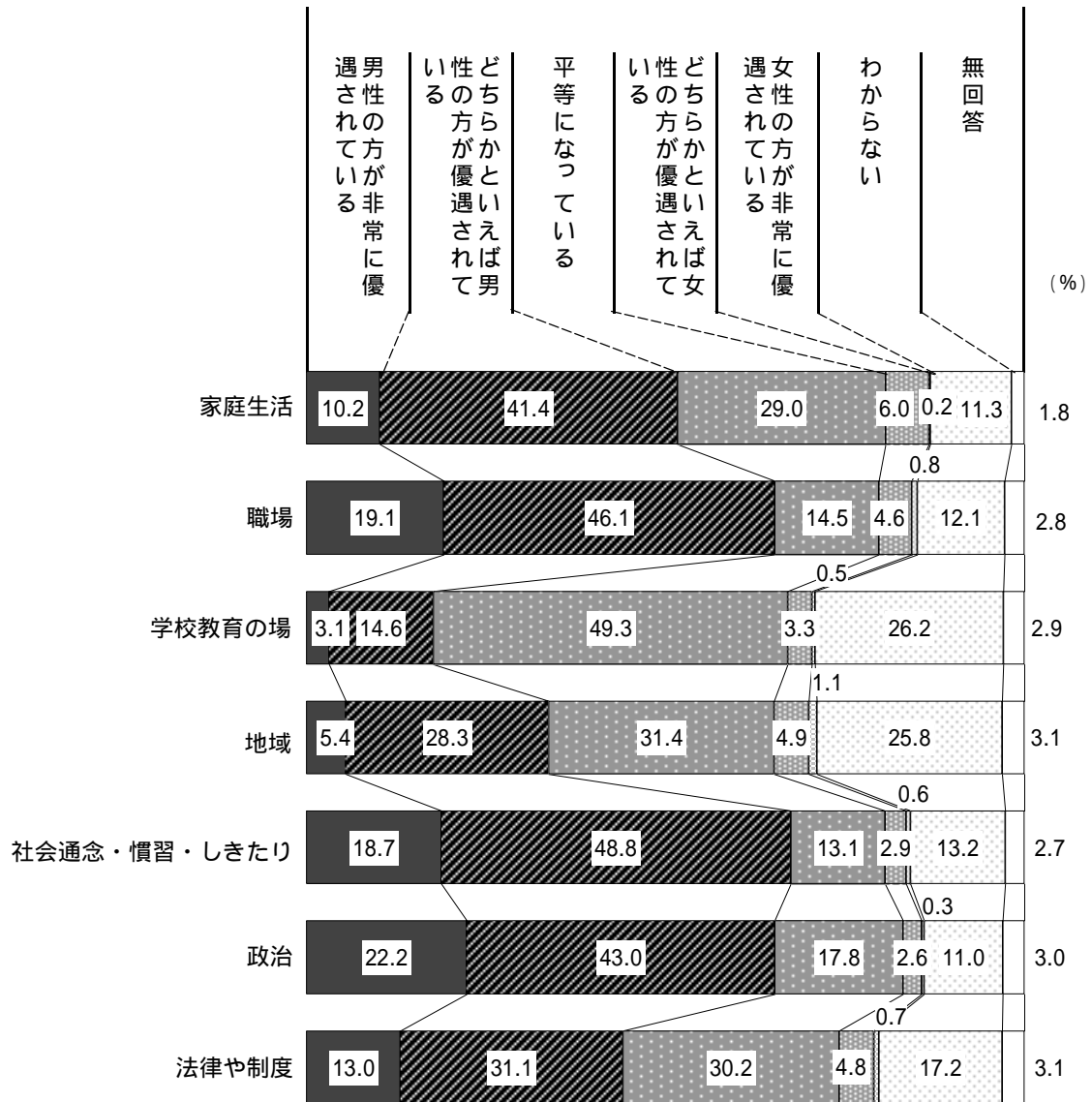


性・年齢別では、すべての性・年齢で 男性優遇派 が最も多くなっている。女性40歳から50歳代では 男性優遇派 が約65%を占め、男女ともに40歳代、50歳代で他の年齢よりも多くなっている。「平等になっている」は男性60歳以上が最も多い。

( 2 ) 男女平等に対する意識

問52 あなたは、次にあげる分野において、男女は平等になっていると思いますか。  
 それぞれの項目について、1つだけ選んでください。  
 ( 各項目ごとにあてはまる番号を1つだけ )

図 47 - 1

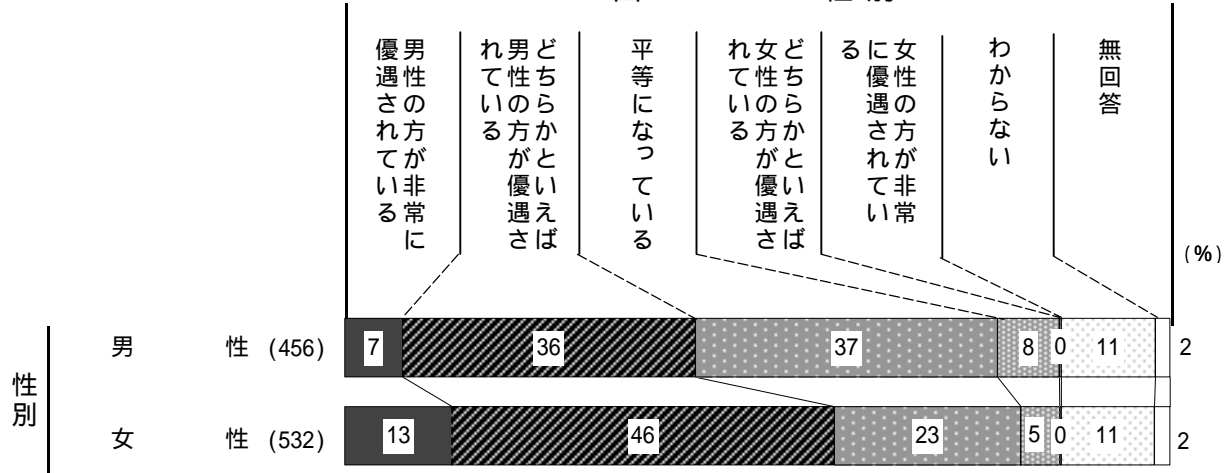


【全体 = 988】

各項目の男女平等に対する意識は、「家庭生活」、「職場」、「地域」、「社会通念・慣習・しきたり」、「政治」、「法律や制度」は 男性優遇派 の割合が 女性優遇派 や 平等 より多くなっている。「学校教育の場」では 平等 の割合が最も多くなっている。

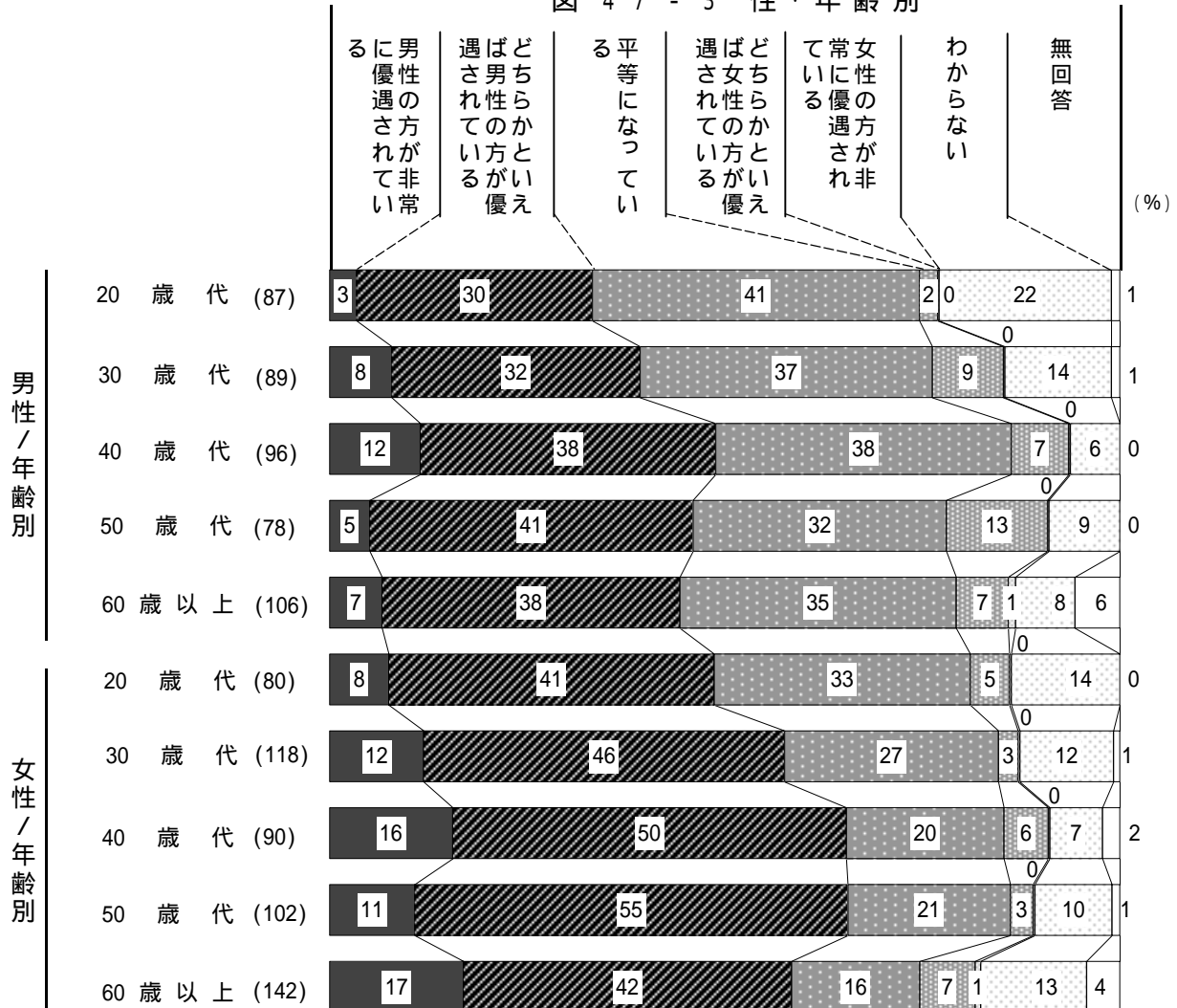
男女平等についての意識  
【家庭生活】

図 4 7 - 2 性別



性別では、男女ともに 男性優遇派 の割合が最も多くなっている。男性の方が女性より 平等 の割合が多くなっている。

図 4 7 - 3 性・年齢別



性・年齢別では、男性20歳代を除いたすべての性・年齢で 男性優遇派 の割合が最も多い。女性の40歳から50歳代では 男性優遇派 は66%で他の性・年齢と比べて多い。

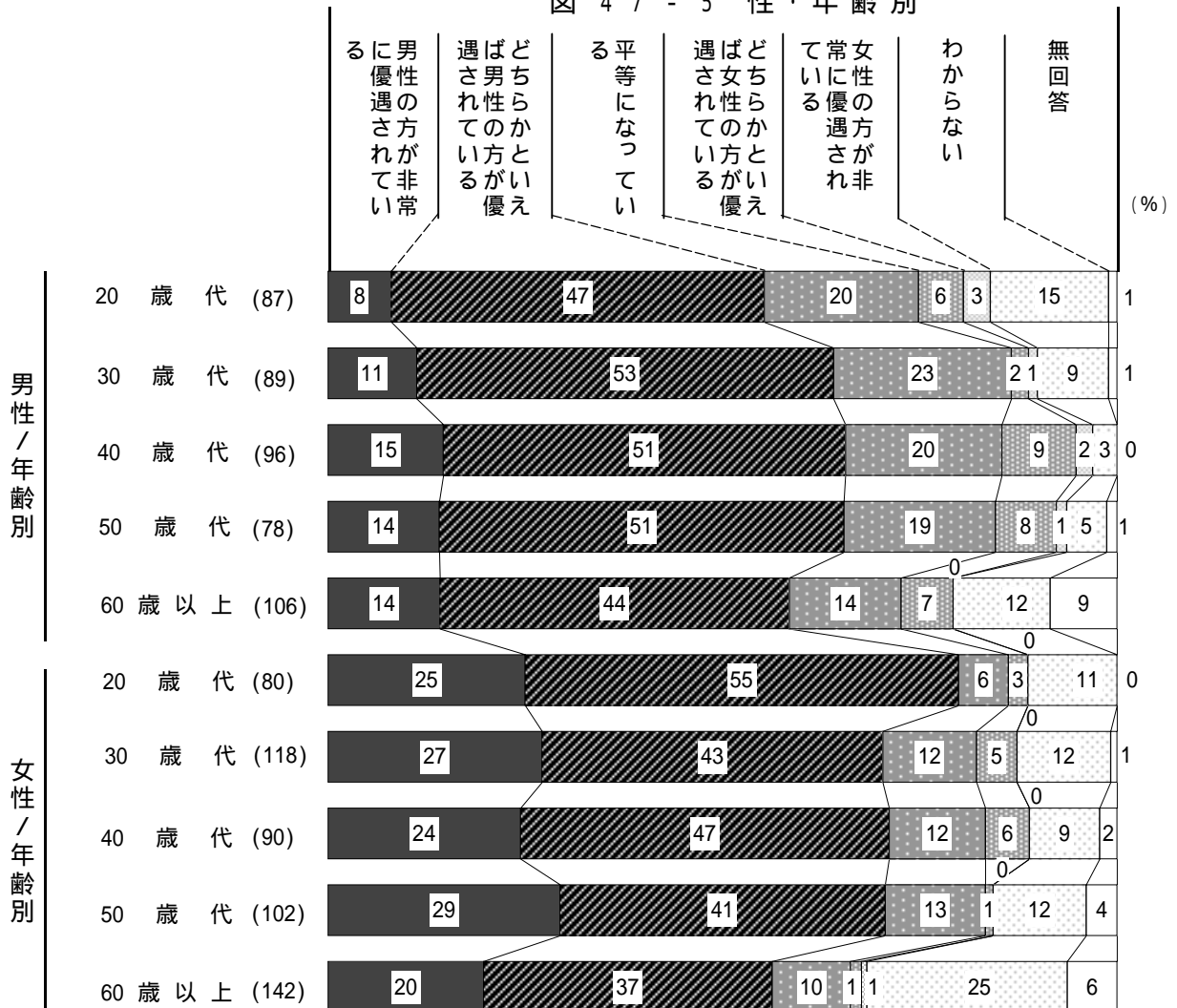
男女平等についての意識  
【 職 場 】

図 4 7 - 4 性別



性別では、男女ともに 男性優遇派 の割合が最も多くなっている。女性の方が男性より 男性優遇派 の割合が多くなっている。

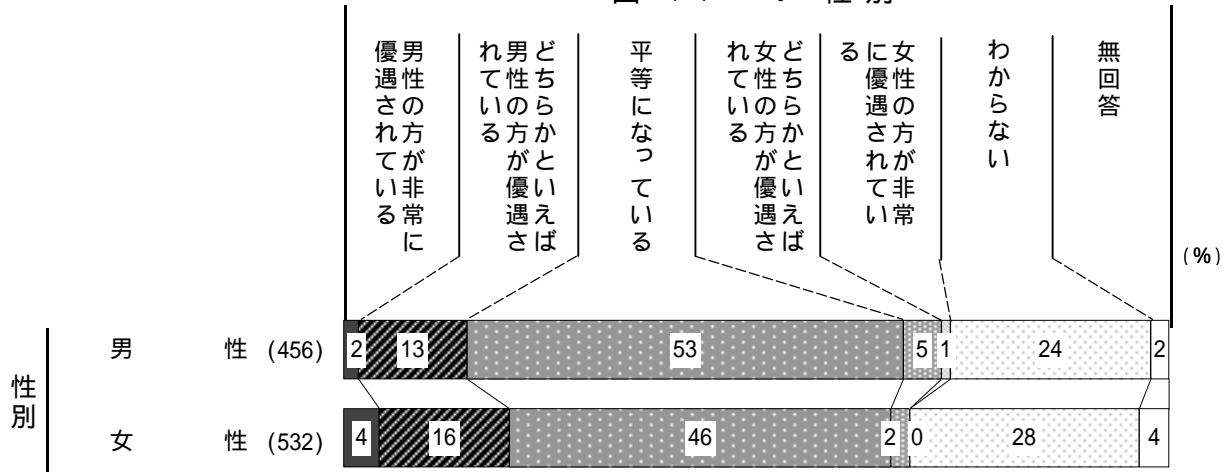
図 4 7 - 5 性・年齢別



性・年齢別では、女性20歳代の 男性優遇派 の割合が約80%と多数を占めている。

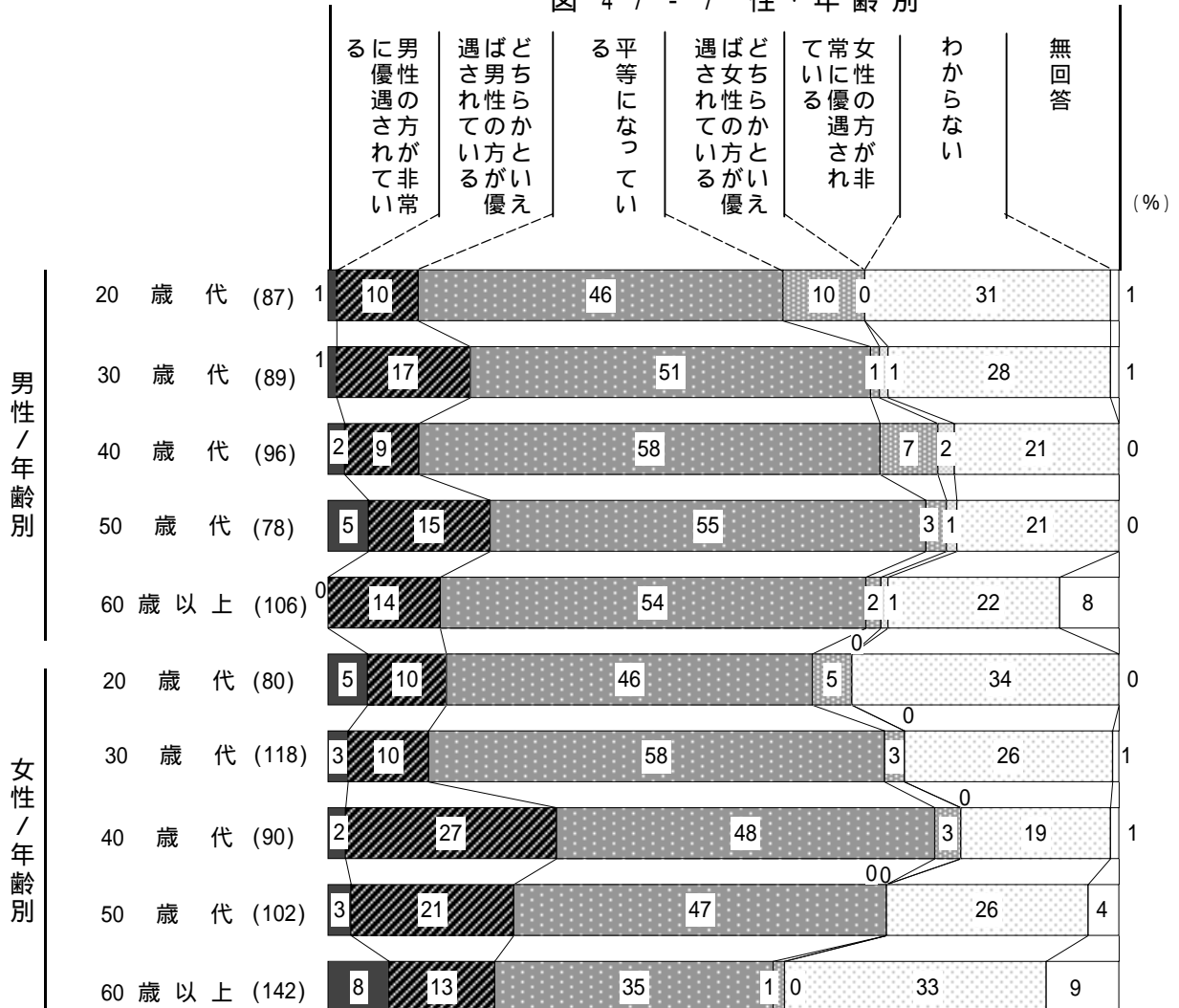
男女平等についての意識  
【 学校教育の場 】

図 4 7 - 6 性別



性別では、男女ともに 平等 の割合が最も多くなっている。 平等 の割合は男性の方が女性よりも多くなっている。

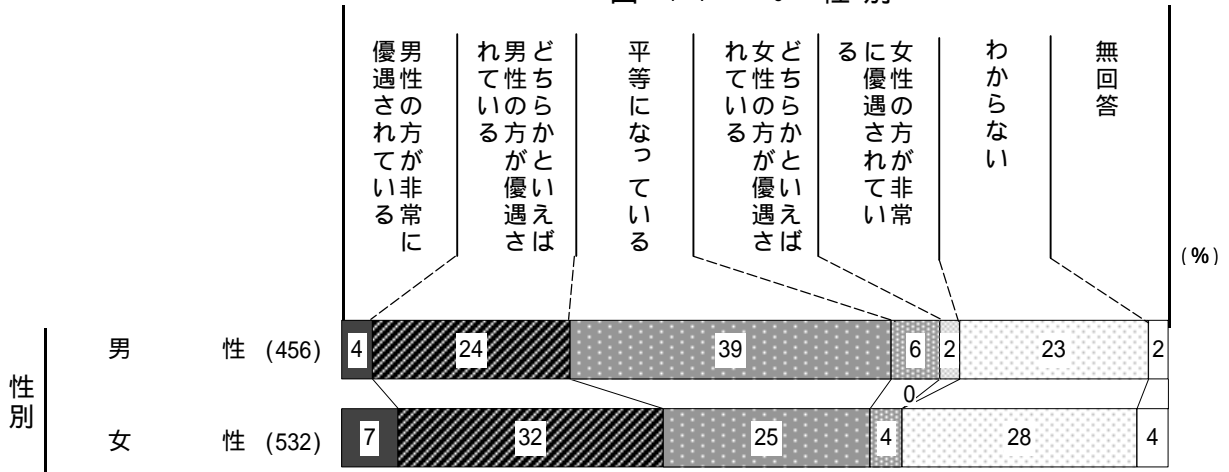
図 4 7 - 7 性・年齢別



性・年齢別では、すべての性・年齢で 平等 の割合が最も多くなっている。

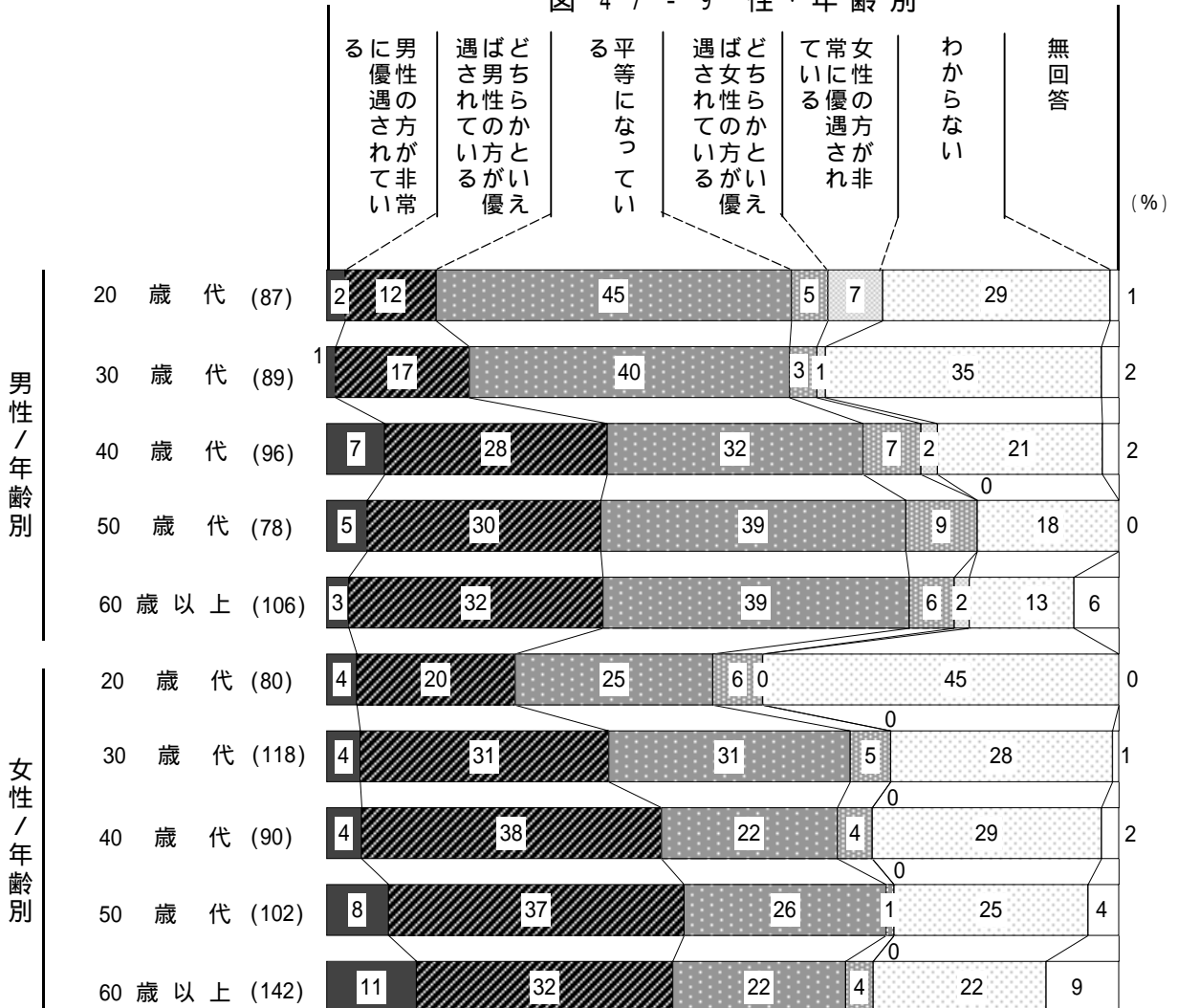
男女平等についての意識  
【 地 域 】

図 4 7 - 8 性別



性別では、男性は 平等 が最も多く、女性は 男性優遇派 の割合が最も多い。

図 4 7 - 9 性・年齢別



性・年齢別では、男性は40歳代を除くすべての年齢で 平等 が 男性優遇派 より多く、女性は20歳代を除くすべての年齢で 男性優遇派 の割合が 平等 より多い。

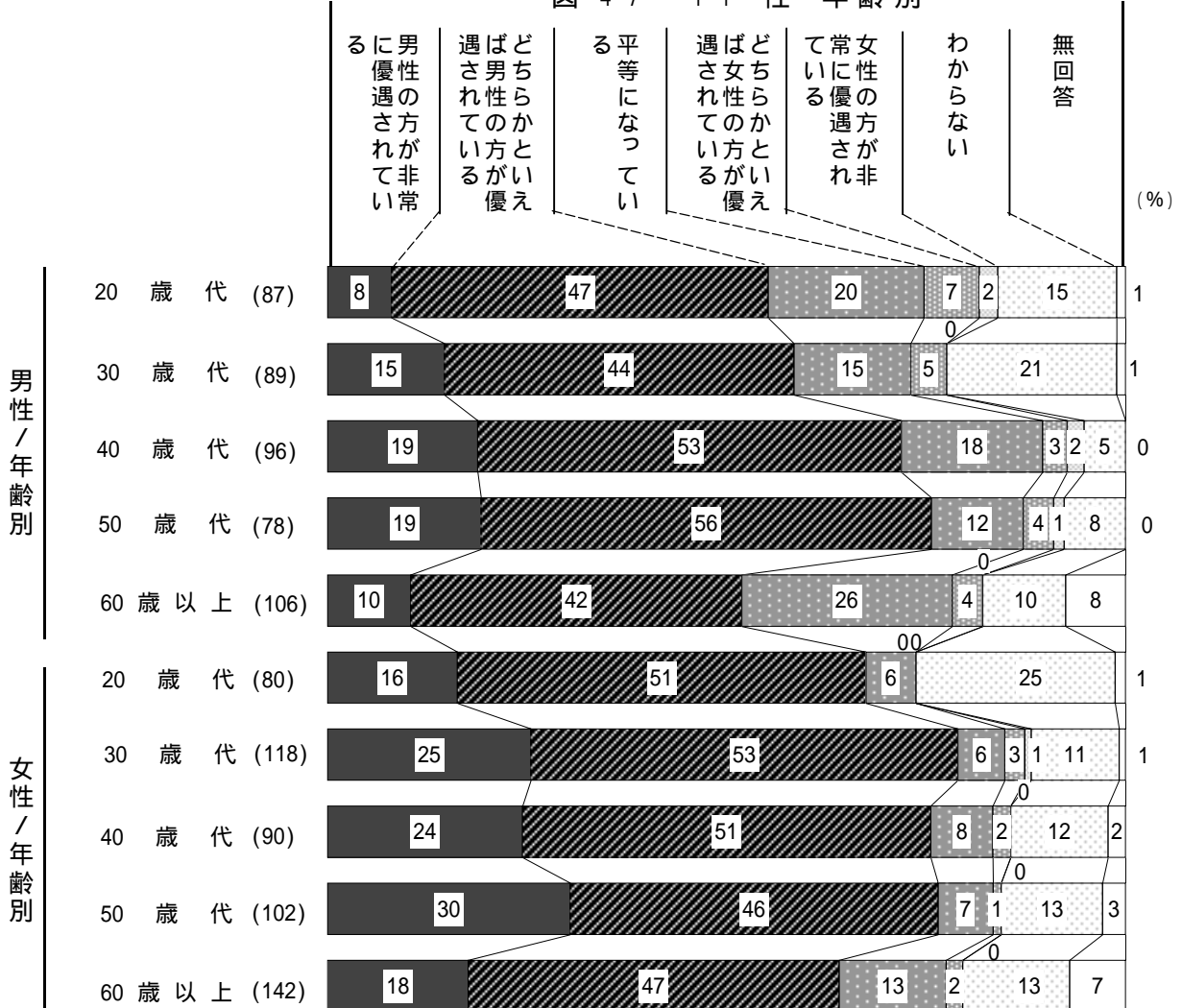
男女平等についての意識  
【 社会通念・慣習・しきたり 】

図 47 - 10 性別



性別では、男女ともに 男性優遇派 の割合が最も多くなっている。

図 47 - 11 性・年齢別

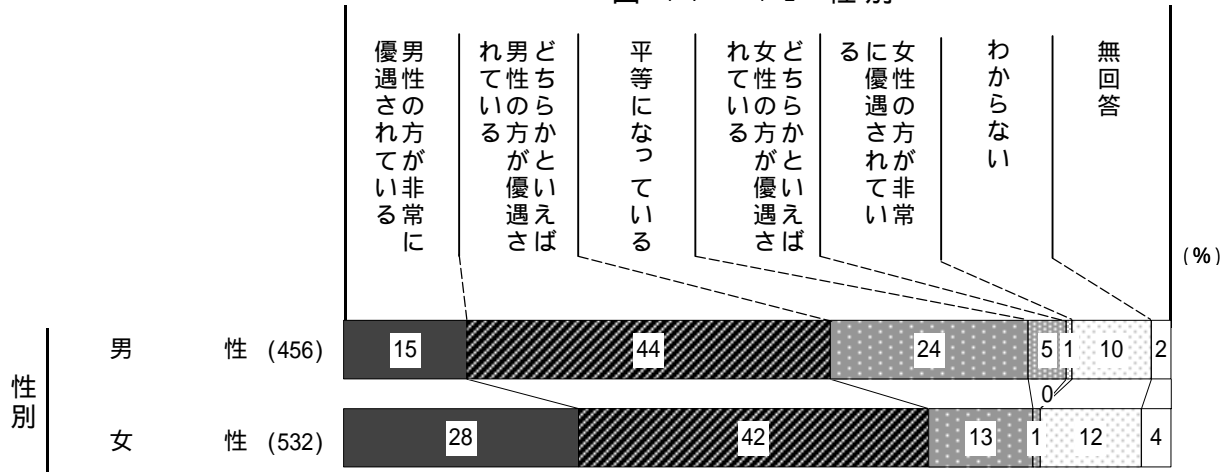


性・年齢別では、すべての性・年齢で 男性優遇派 の割合が最も多くなっている。男性40歳から50歳代、女性30歳から50歳代で 男性優遇派 は70%を上回っている。



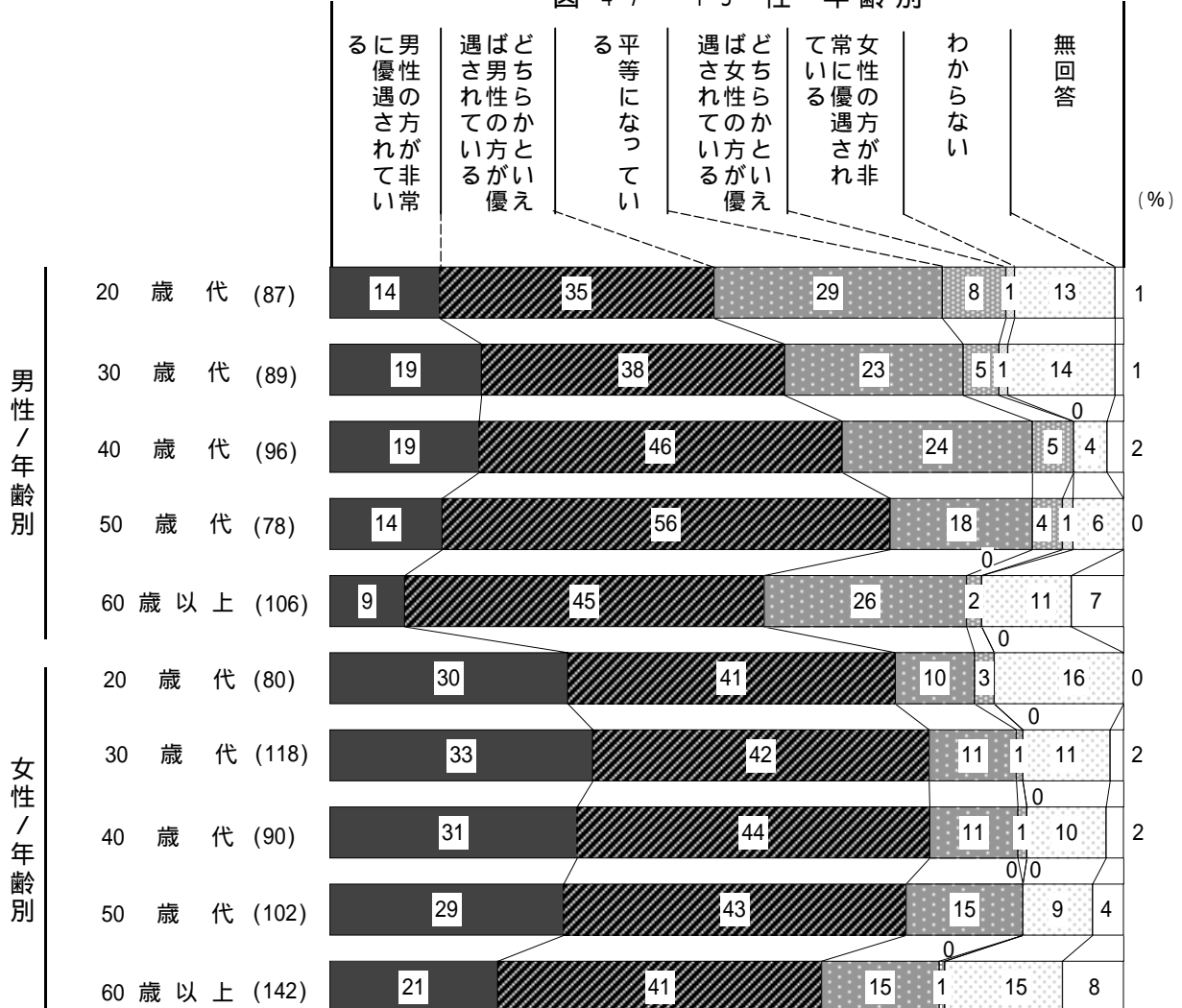
男女平等についての意識  
【政治】

図 47 - 12 性別



性別では、男女ともに 男性優遇派 の割合が最も多くなっている。

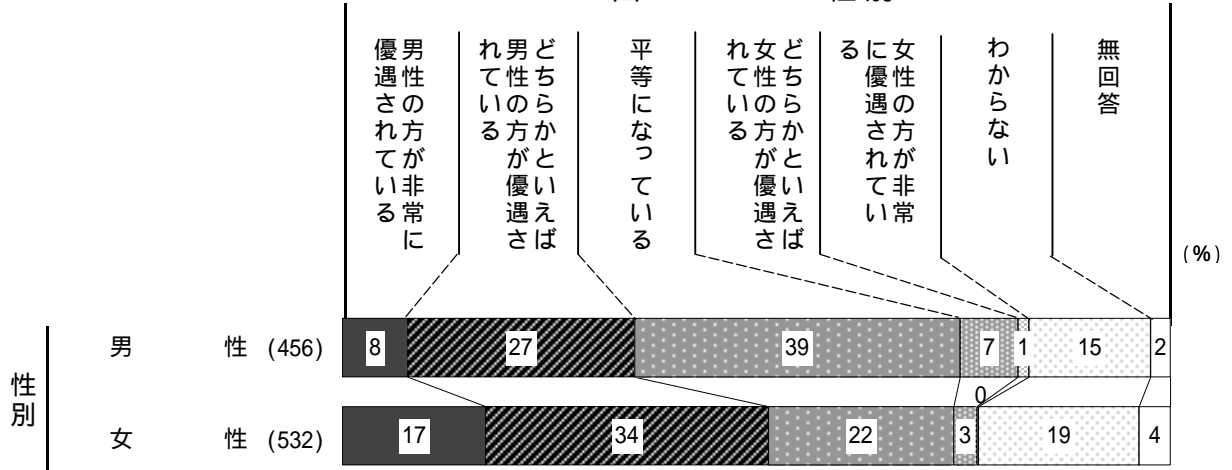
図 47 - 13 性・年齢別



性・年齢別では、すべての性・年齢で 男性優遇派 の割合が最も多くなっている。  
男性50歳代、女性20歳から50歳代で 男性優遇派 は70%を上回っている。

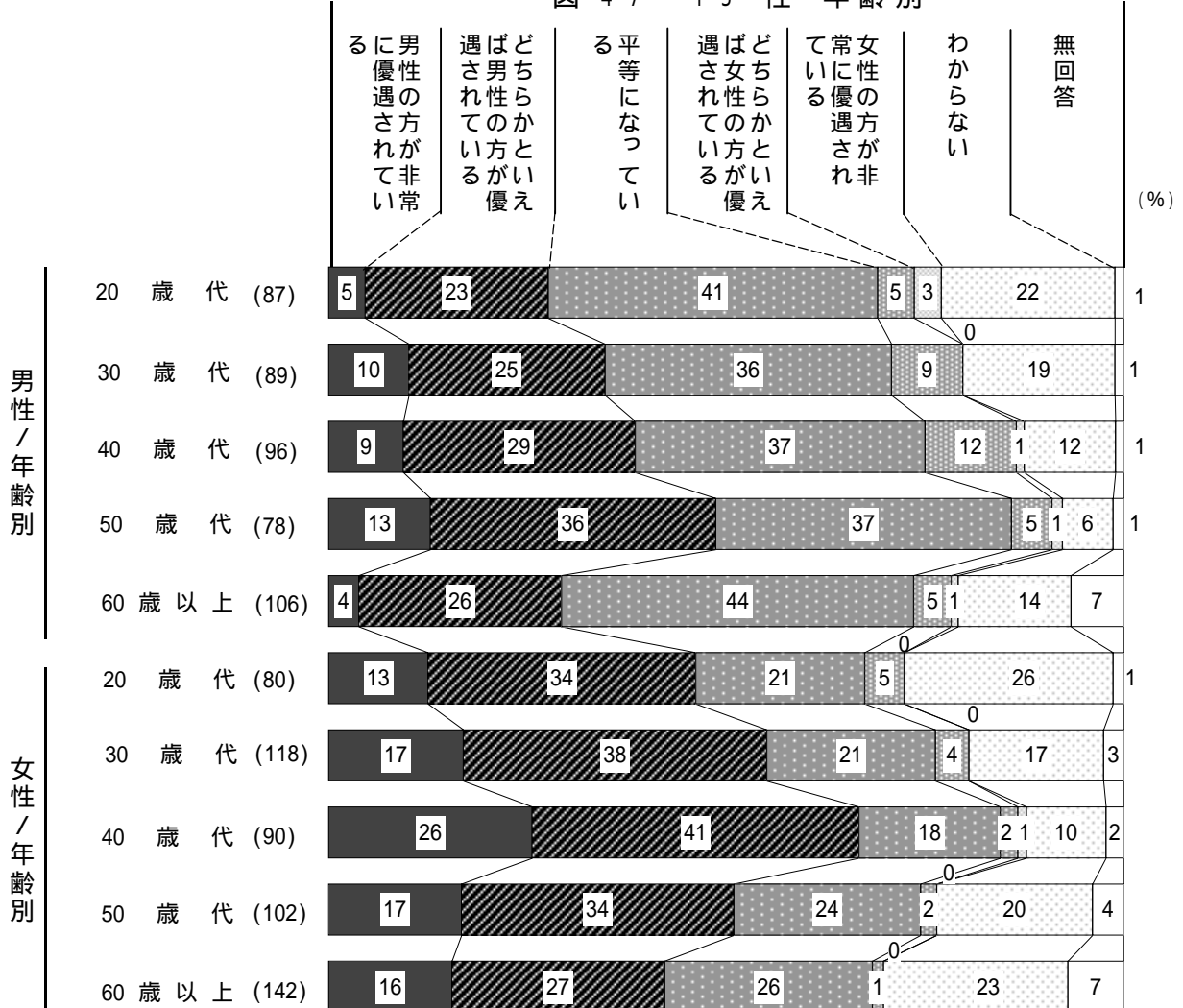
男女平等についての意識  
【 法律や制度 】

図 47 - 14 性別



性別では、男性は 平等 が最も多く、女性は 男性優遇派 の割合が最も多い。

図 47 - 15 性・年齢別



性・年齢別では、男性20歳から30歳代、60歳以上は 平等 が最も多く、男性40歳から50歳代、女性のすべての年齢では 男性優遇派 の割合が最も多くなっている。

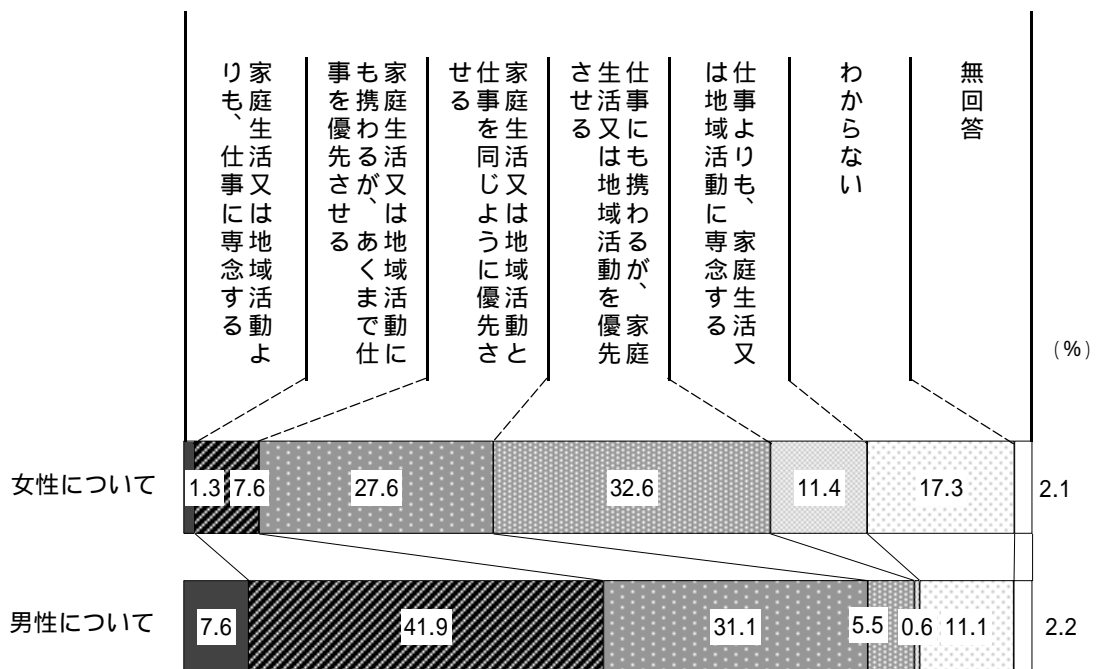
### (3) 男女における仕事と家庭生活・地域活動のバランス

問53 仕事と家事、育児、介護等の家庭生活や地域活動のバランスを、どのようにとることが望ましいと思いますか。女性と男性、それぞれの場合についてお答え下さい。

問53-1 女性については、どのようにとることが望ましいと思いますか。(1つだけ)

問53-2 男性については、どのようにとることが望ましいと思いますか。(1つだけ)

図 48 - 1



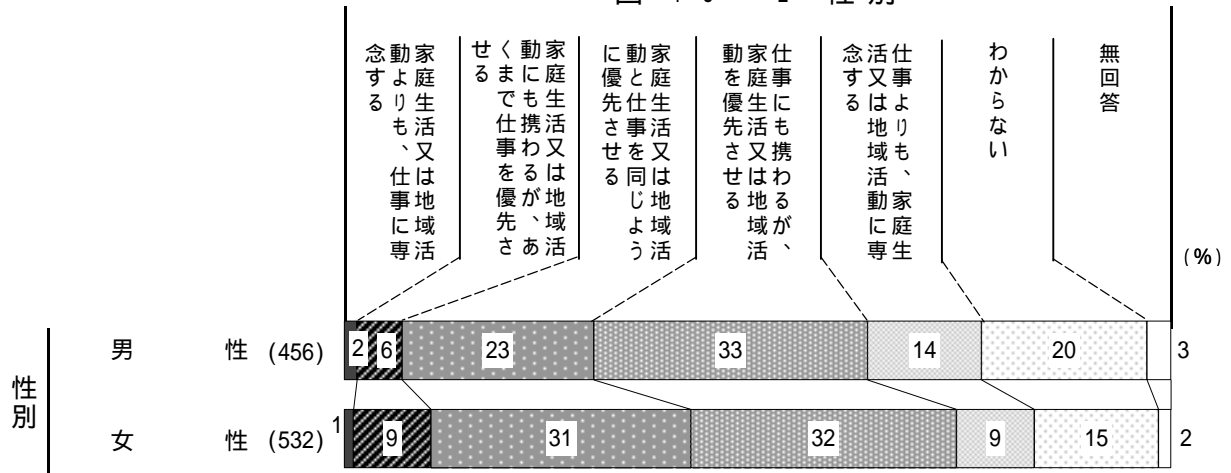
【全体 = 988】

男女における仕事と家庭生活・地域活動のバランスをたずねたところ、「女性」については「仕事にも携わるが、家庭生活又は地域活動を優先させる」(32.6%)が最も多く、これに「仕事よりも、家庭生活又は地域活動に専念する」(11.4%)を合わせた 家庭生活・地域活動派 は44.0%となっている。「家庭生活又は地域活動と同じように優先させる」は27.6%、「家庭生活又は地域活動よりも、仕事に専念する」(1.3%)と「家庭生活又は地域活動にも携わるが、あくまで仕事を優先させる」(7.6%)を合わせた 仕事派 は8.9%にとどまっている。

「男性」については、「家庭生活又は地域活動にも携わるが、あくまで仕事を優先させる」が最も多く41.9%であり、 仕事派 が49.5%、「家庭生活又は地域活動と同じように優先させる」が31.1%、 家庭生活・地域活動派 は6.1%となっている。

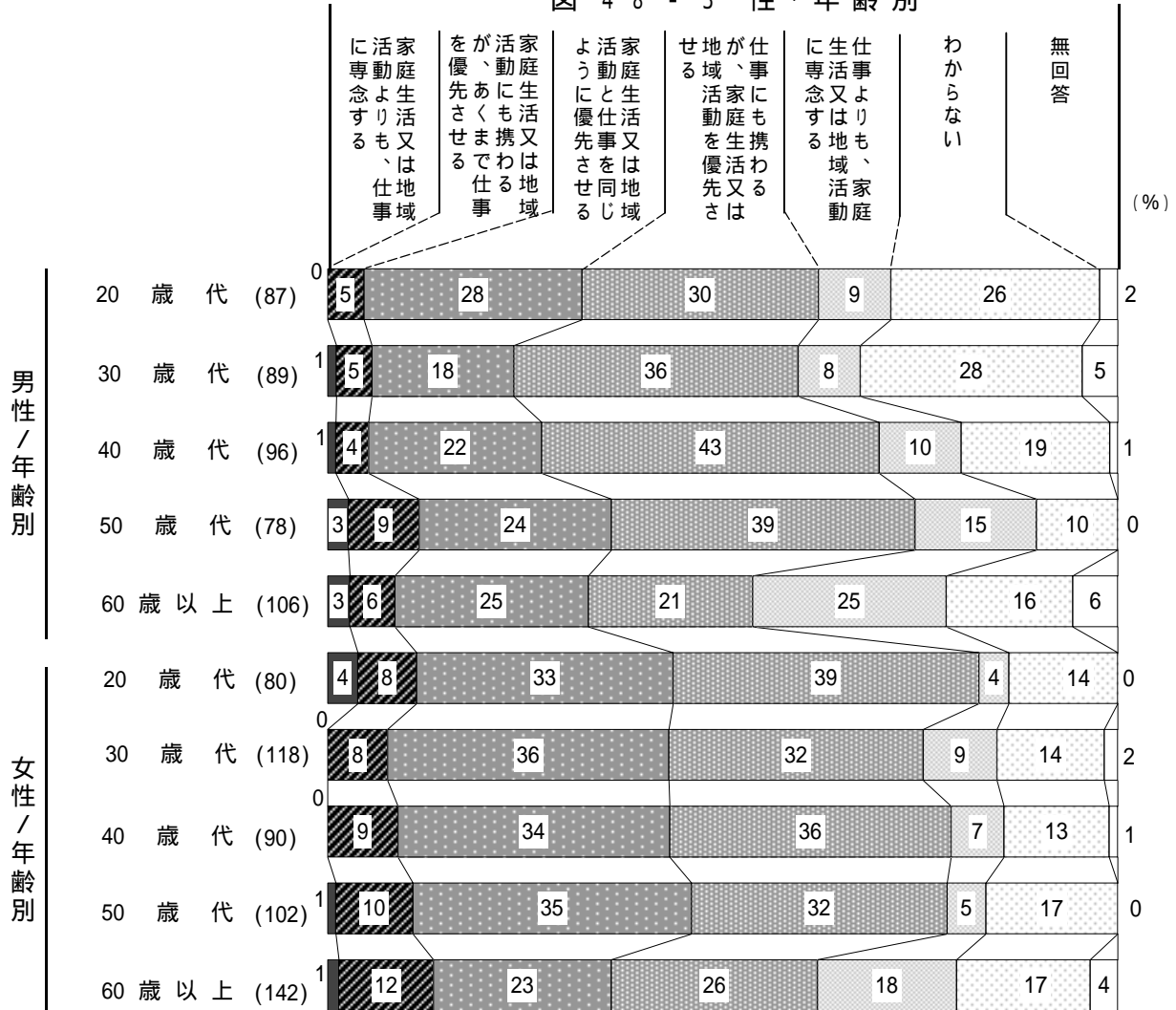
男女における仕事と家庭生活・地域活動のバランス  
【女性について】

図 4 8 - 2 性別



性別では、男女ともに 家庭生活・地域活動派 の割合が最も多くなっている。

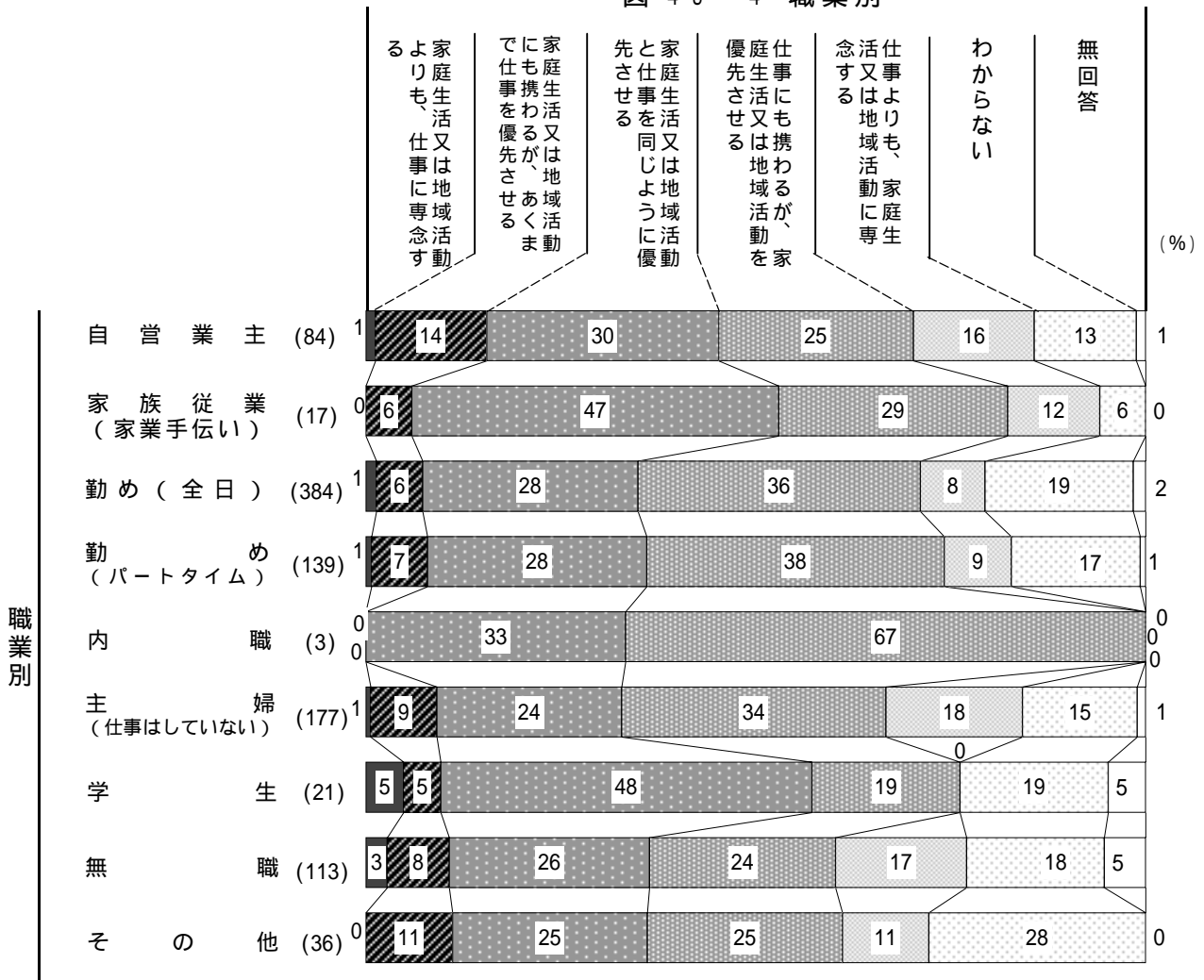
図 4 8 - 3 性・年齢別



性・年齢別では、すべての性・年齢で 家庭生活・地域活動派 の割合が最も多く、女性20歳から50歳代は「家庭生活又は地域活動と仕事を同じように優先させる」が30%を上回り、比較的多くなっている。

男女における仕事と家庭生活・地域活動のバランス  
【女性について】

図 48 - 4 職業別

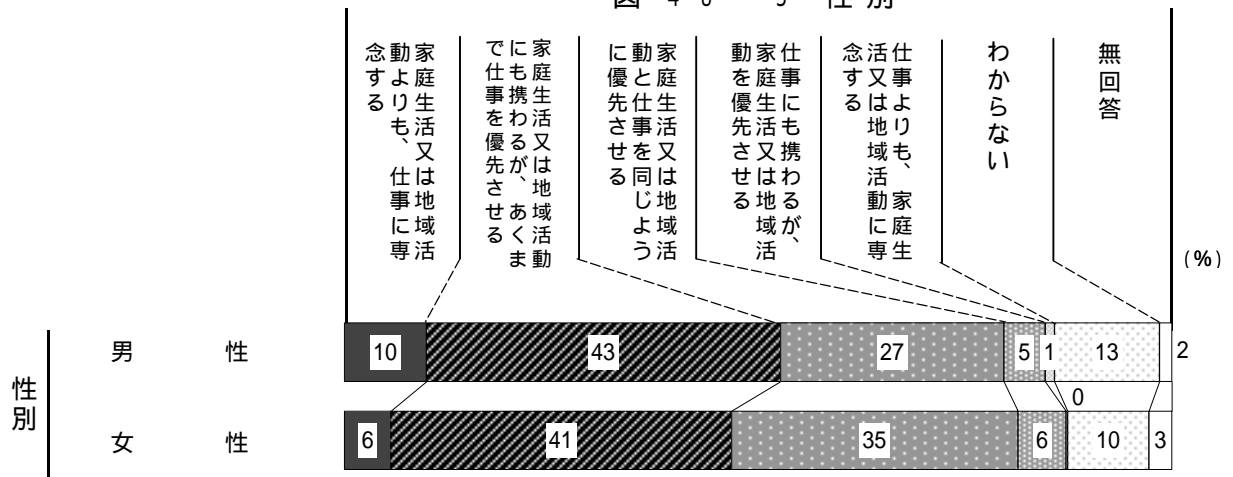


職業別では、自営業主、勤め（全日）、勤め（パートタイム）、主婦、無職で 家庭生活・地域活動派 の割合が最も多くなっている。

（ 印の記号は、サンプル数が少ないのでコメントを省略）

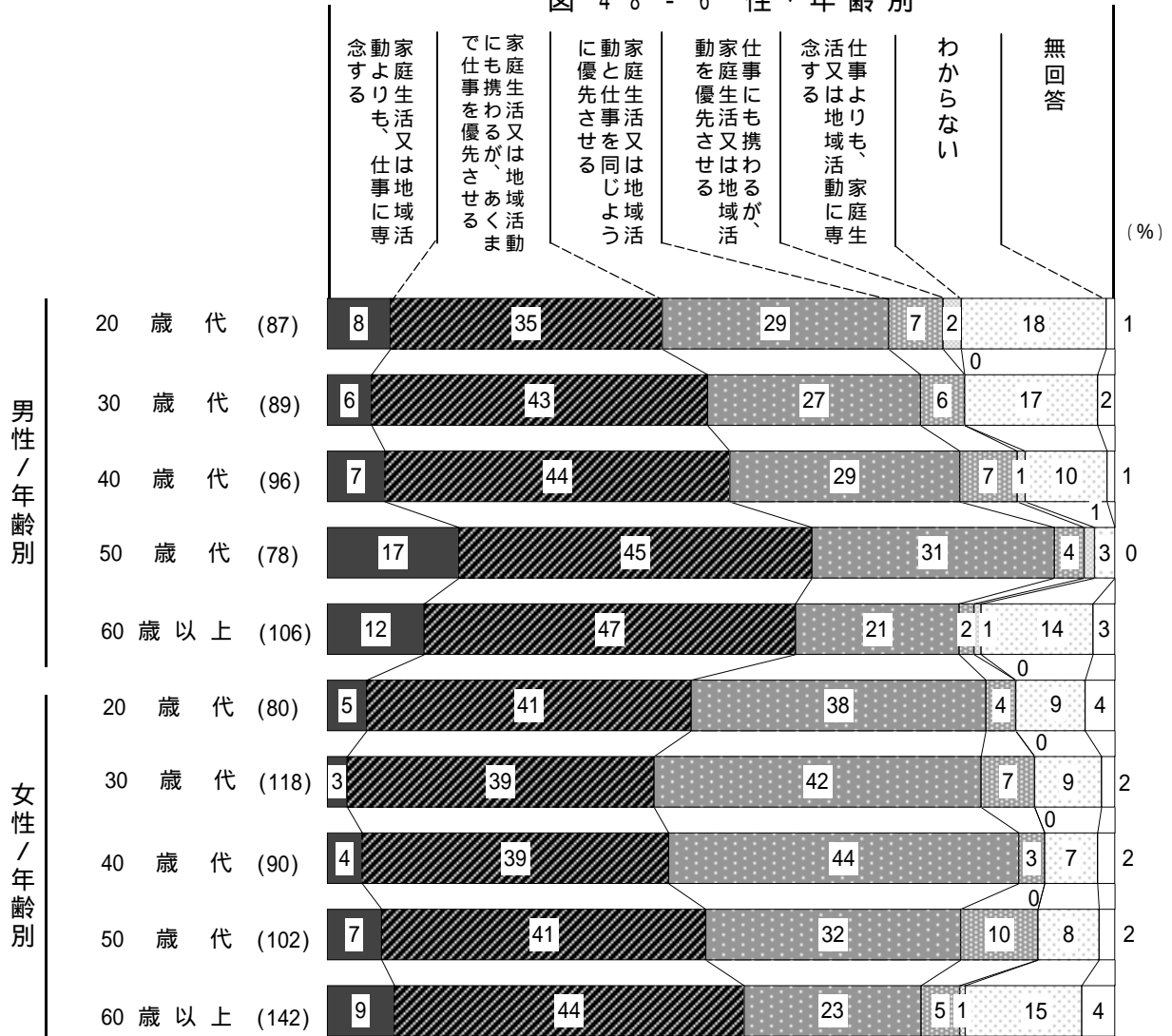
男女における仕事と家庭生活・地域活動のバランス  
【 男性について 】

図 4 8 - 5 性別



性別では、男女ともに 仕事派 の割合が最も多くなっている。

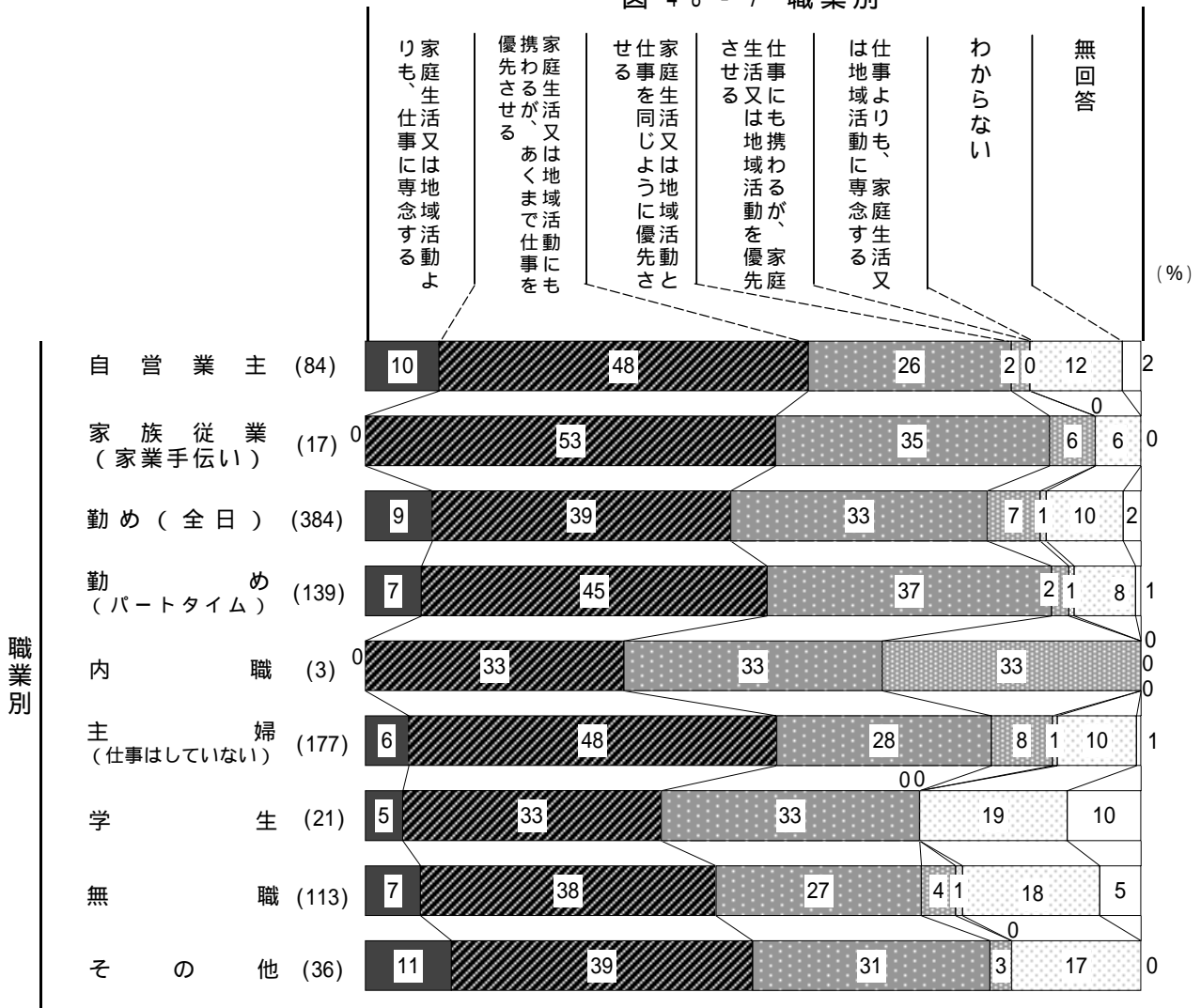
図 4 8 - 6 性・年齢別



性・年齢別では、女性の30歳から40歳代を除くすべての性・年齢で 仕事派 の割合が最も多く、女性の30歳代は 仕事派 と「家庭生活又は地域活動と仕事を同じように優先させる」の割合がほぼ同率である。

男女における仕事と家庭生活・地域活動のバランス  
【 男性について 】

図 48 - 7 職業別



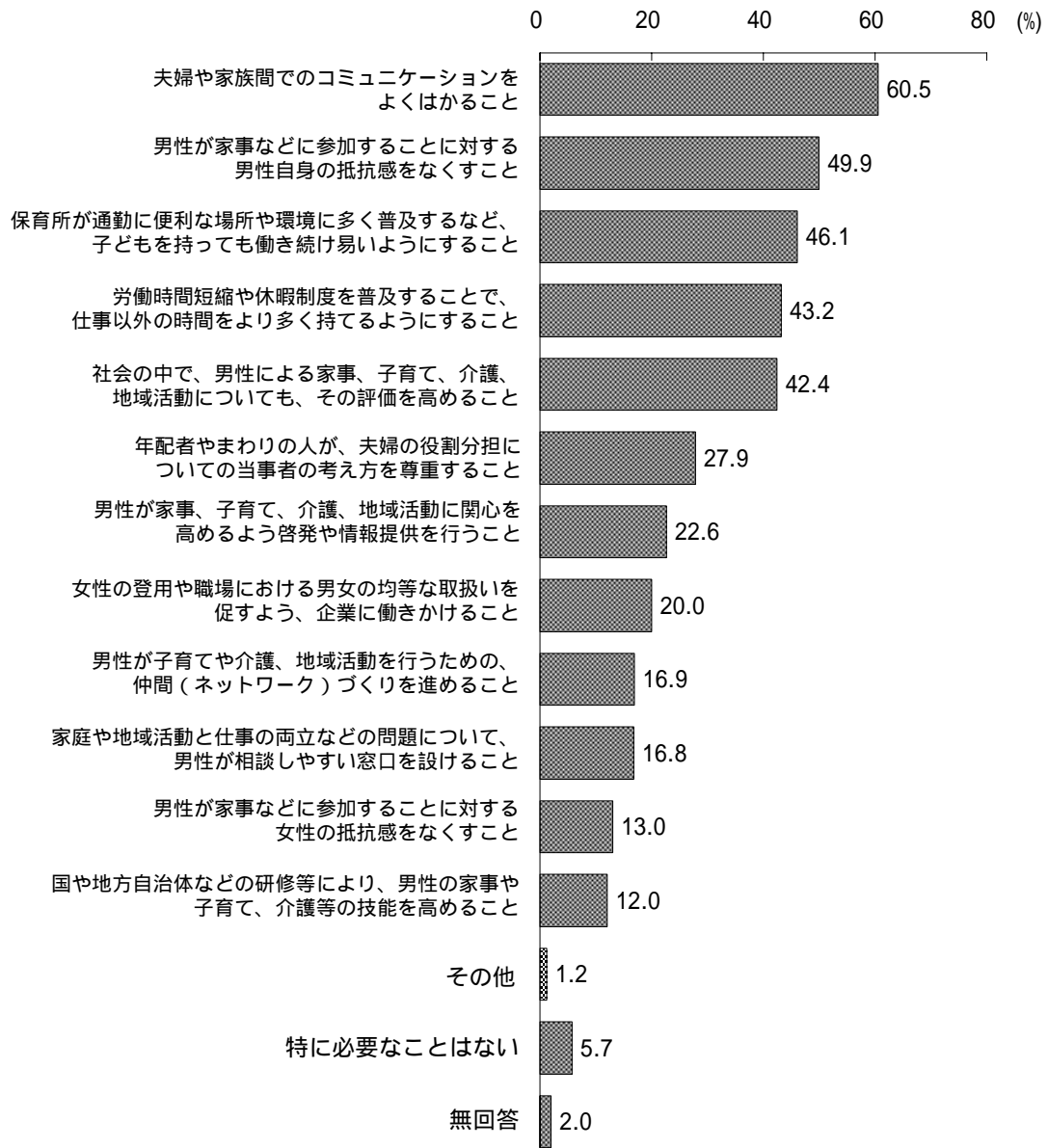
職業別では、自営業主、勤め(全日)、勤め(パートタイム)、主婦、無職で仕事派が最も多くなっている。

( 印の記号は、サンプル数が少ないのでコメントを省略 )

(4) 男性が家事等に積極的に参加するために必要なこと

問54 今後、男性が女性とともに家事、子育て、介護、地域活動に積極的に参加していくためには、どのようなことが必要だと思いますか。次の中からいくつでも選んでください。(いくつでも)

図 49 - 1

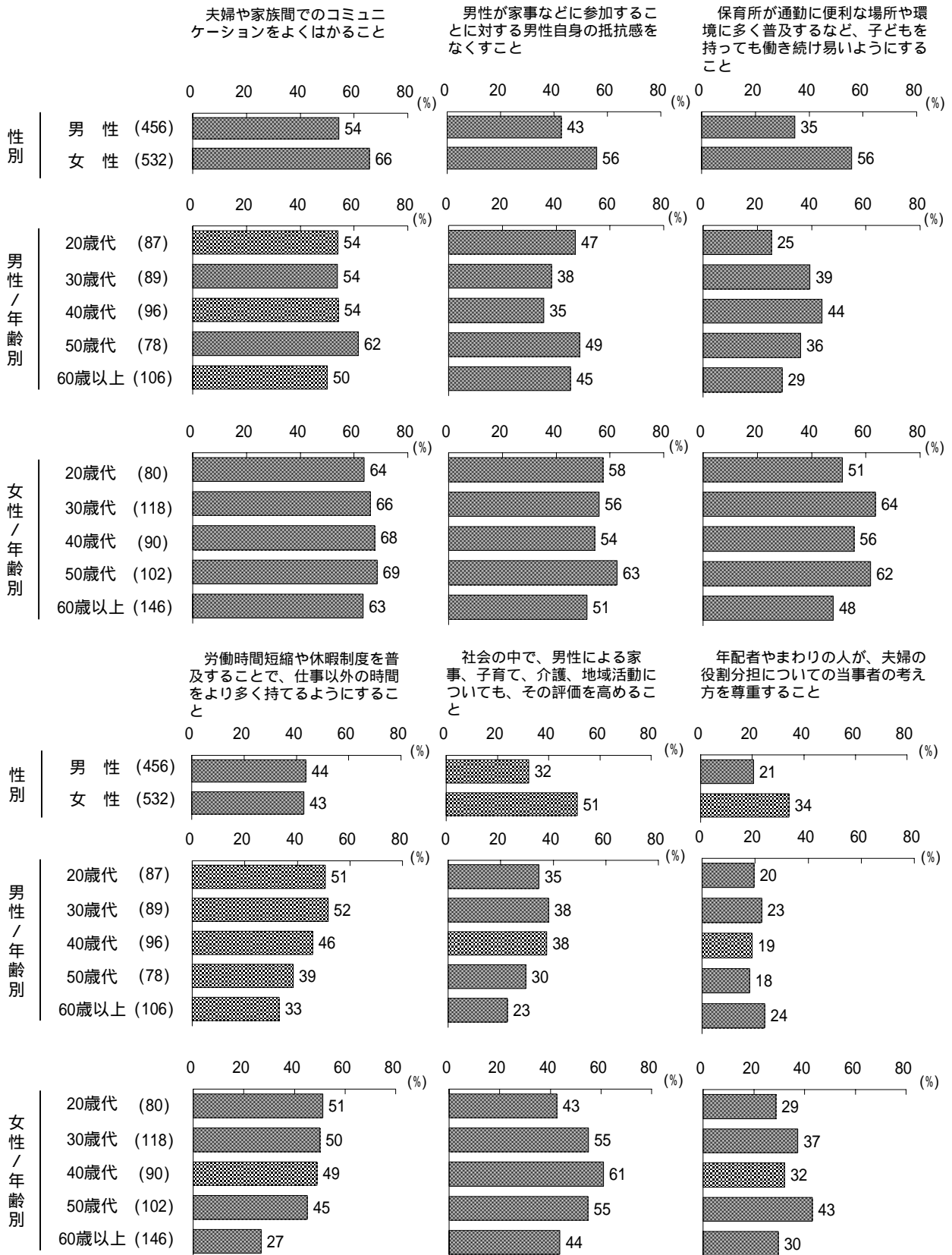


【全体 = 988】

男性が家事等に積極的に参加するために必要なことをたずねたところ、「夫婦や家族間でのコミュニケーションをよくはかること」(60.5%)が最も多く、次いで「男性が家事などに参加することに対する男性自身の抵抗感をなくすこと」(49.9%)、「保育所が通勤に便利な場所や環境に多く普及するなど、子どもを持って働き続けやすいようにすること」(46.1%)などと続いている。



図 49 - 2 性別 / 性・年齢別 (上位 6 項目)

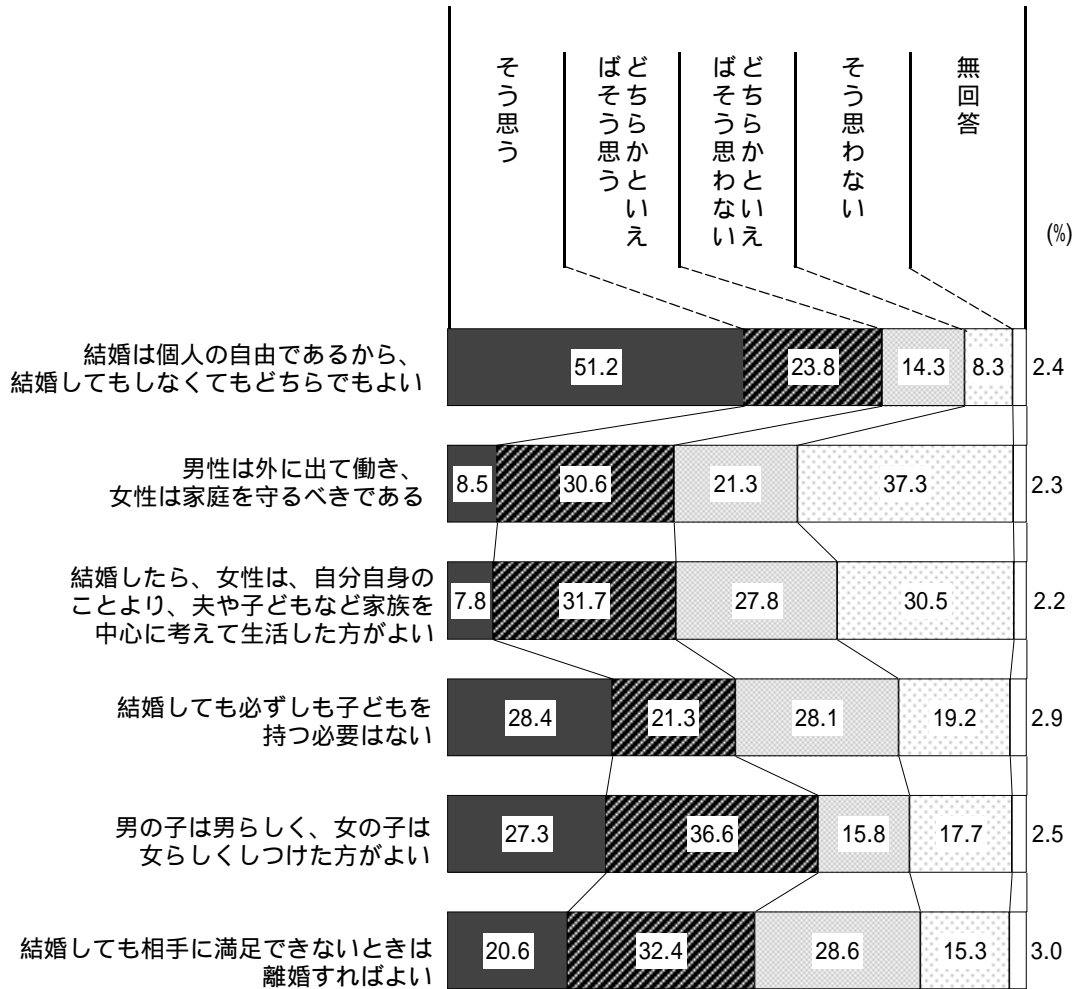


上位 6 項目の性・年齢別では、すべての性・年齢で「夫婦や家族間でのコミュニケーションをよくはかること」が最も多くなっている。「男性が家事などに参加することに対する男性自身の抵抗感をなくすこと」、「保育所が通勤に便利な場所や環境に多く普及するなど、子どもを持って働き続けやすいようにすること」は全体的に女性の方が男性よりも多くなっている。

( 5 ) 男女平等認識における考え方

問55 あなたは、次の考え方について、どう思いますか。それぞれの項目について、1つだけ選んでください。(各項目ごとにあてはまる番号を1つだけ)

図 50 - 1

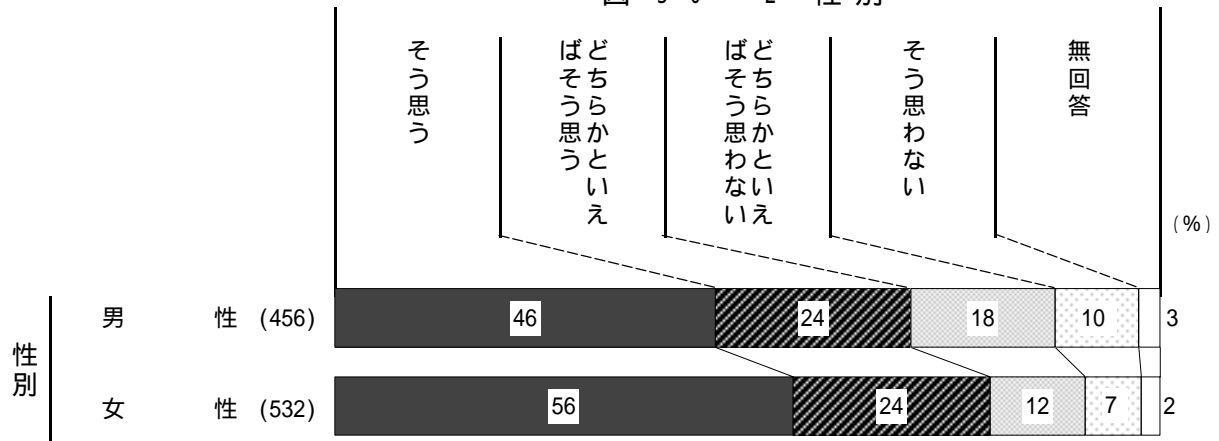


【全体 = 988】

「結婚は個人の自由」の考え方については、「そう思う」(51.2%)と「どちらかといえばそう思う」(23.8%)を合わせた そう思う は75.0%を占めている。「男性は外、女性は家庭」、「女性は結婚したら家庭を中心に生活する」は「そう思わない」と「どちらかといえばそう思わない」を合わせた そう思わない の方が そう思う を上回っている。「結婚しても子どもを持つ必要はない」、「男の子は男の子らしく、女の子は女の子らしく」、「結婚しても相手に満足できないときは離婚すればよい」の考え方は そう思う の割合が そう思わない を上回っている。

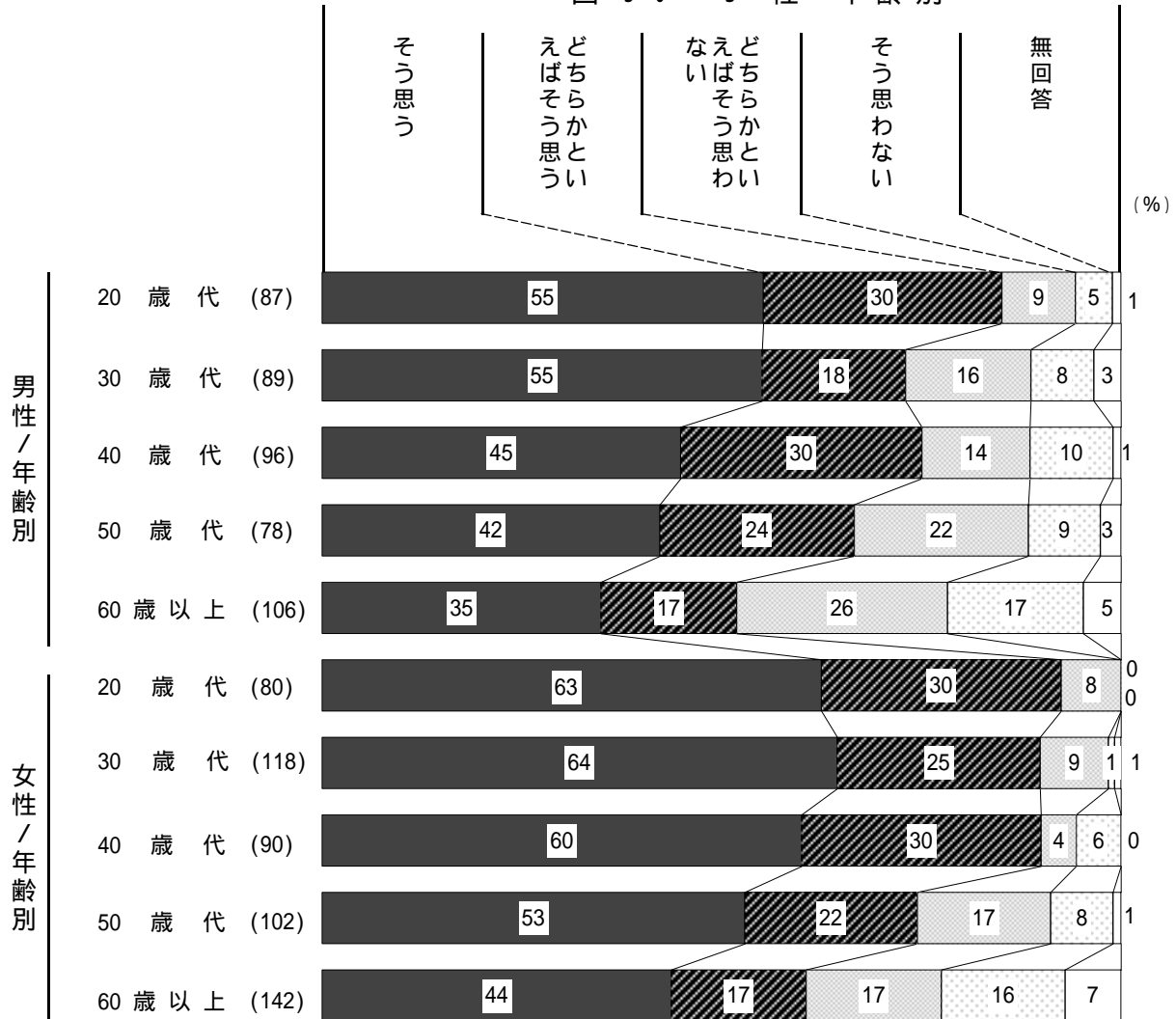
男女平等認識における考え方  
 【 結婚は個人の自由であるから、結婚してもしなくてもどちらでもよい 】

図 50 - 2 性別



性別では、そう思う の割合は女性の方が男性よりも多くなっている。

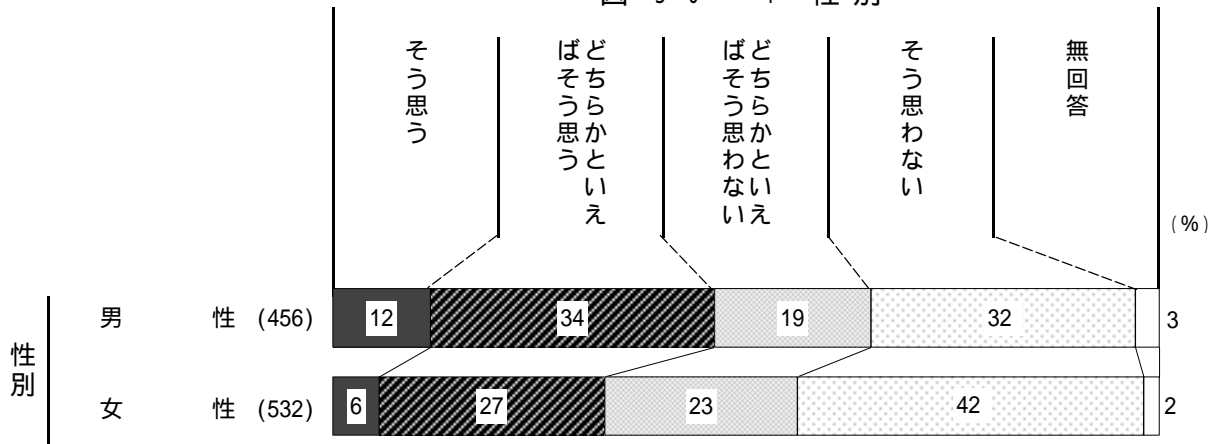
図 50 - 3 性・年齢別



性・年齢別では、男女ともに そう思う の割合は他の年齢に比べ20歳代が最も多く、年齢が上がるにつれて減少し、そう思わない の割合が上昇する傾向がある。

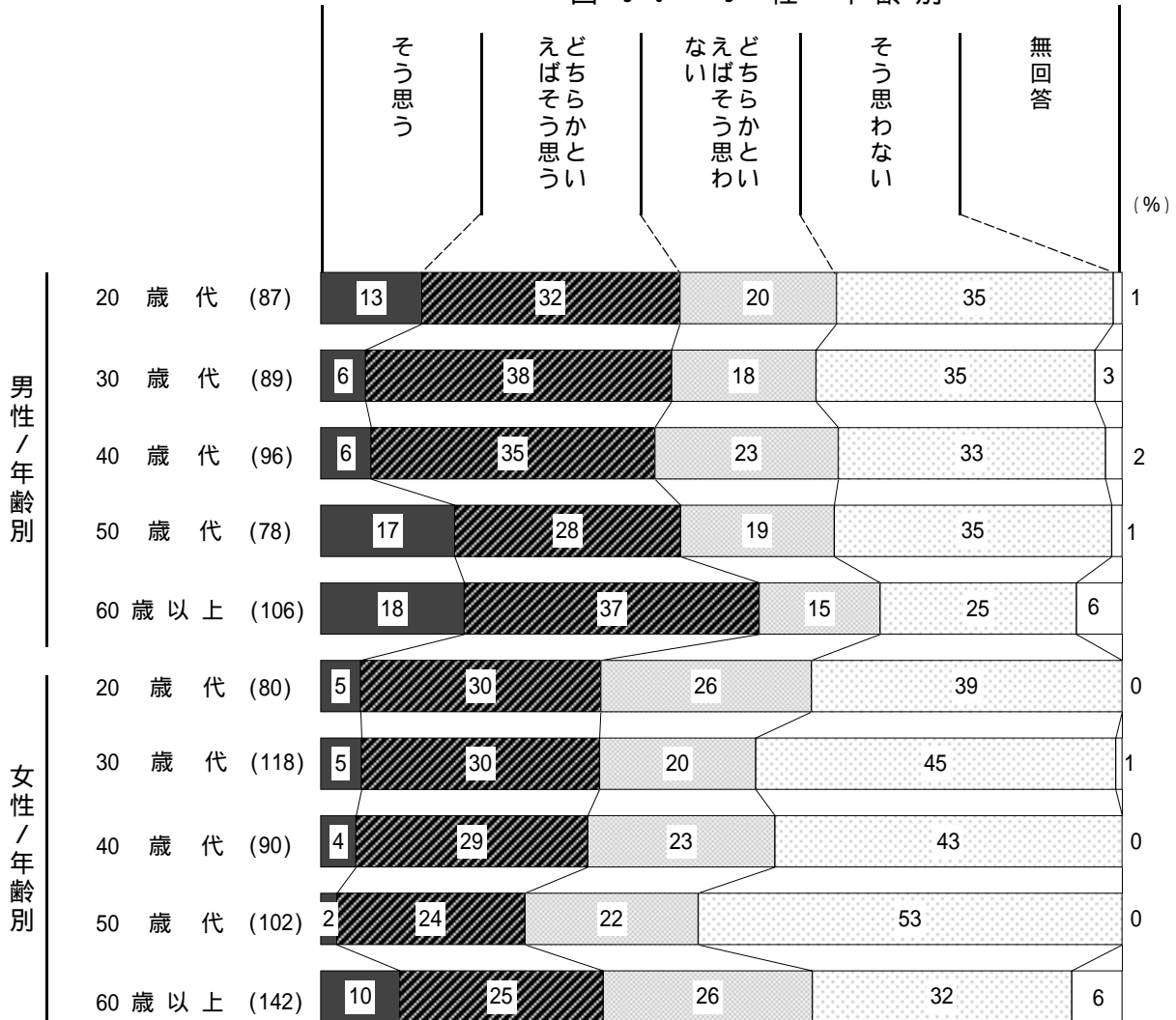
男女平等認識における考え方  
 【 男性は外に出て働き、女性は家庭を守るべきである 】

図 50 - 4 性別



性別では、男女ともに そう思わない の割合が そう思う よりも多くなっている。

図 50 - 5 性・年齢別

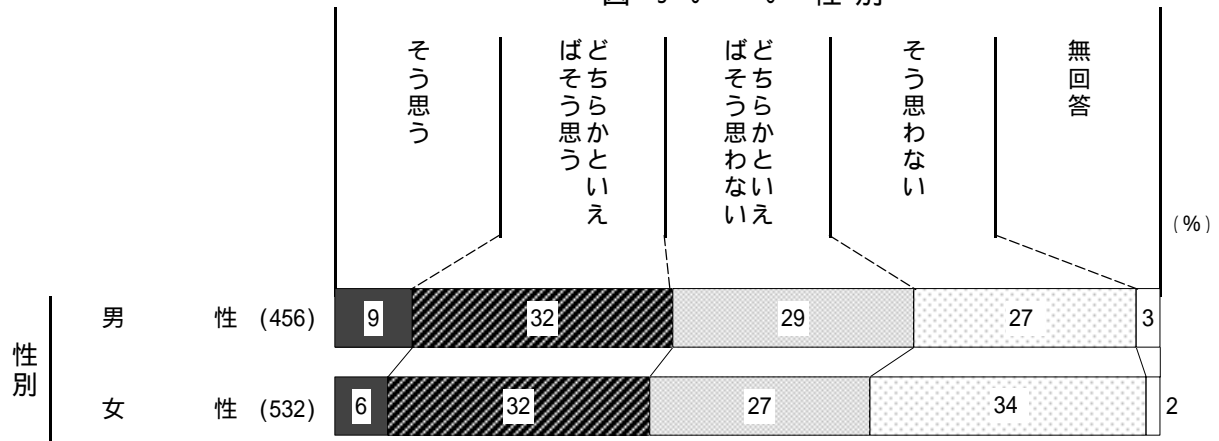


性・年齢別では、男性60歳以上を除いてすべての性・年齢で そう思わない の割合が そう思う を上回っている。

男女平等認識における考え方

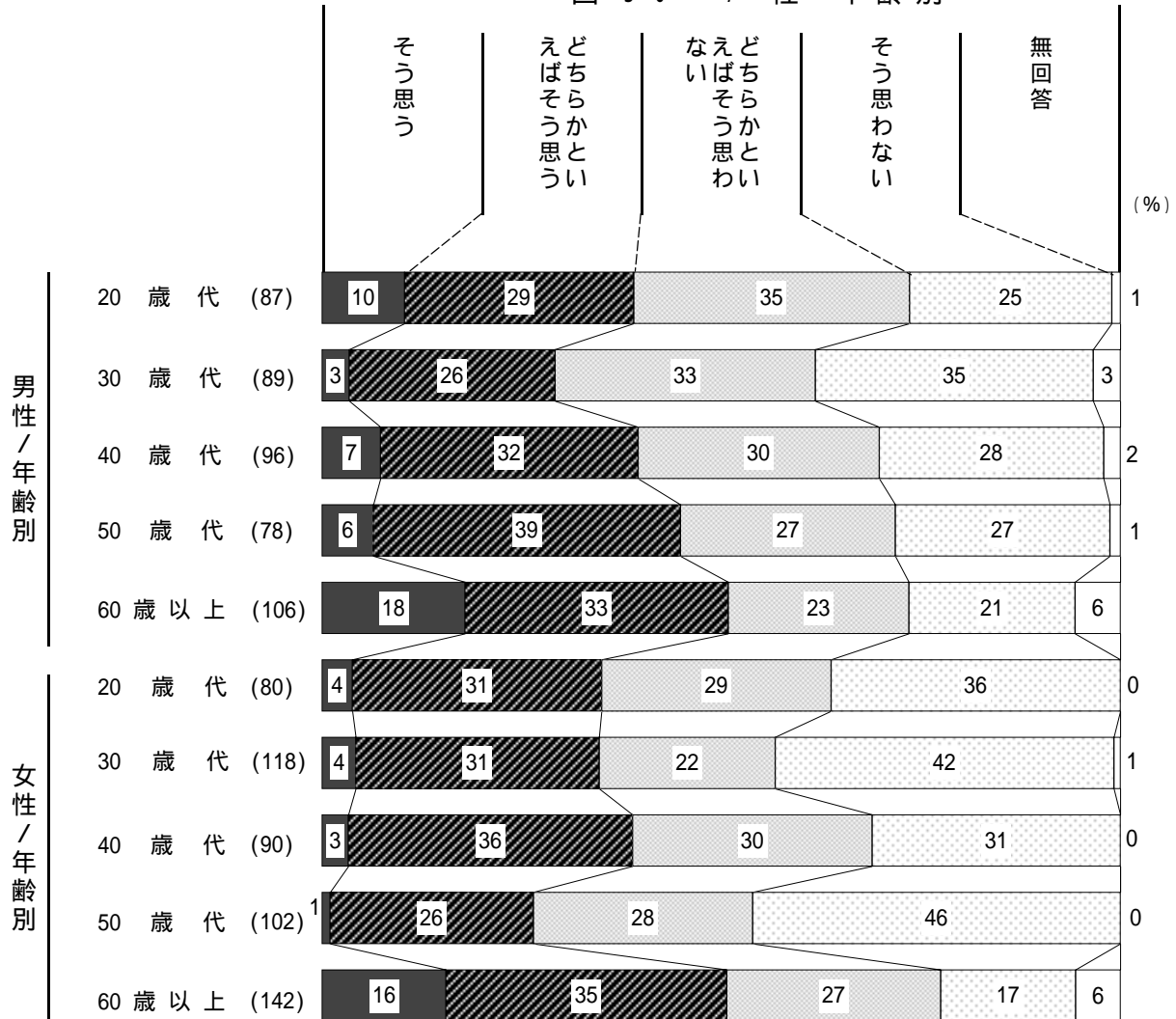
【結婚したら、女性は、自分自身のことより、夫や子どもなど家族を中心に考えて生活した方がよい】

図 50 - 6 性別



性別では、男女ともに そう思わない の割合が そう思う よりも多くなっている。

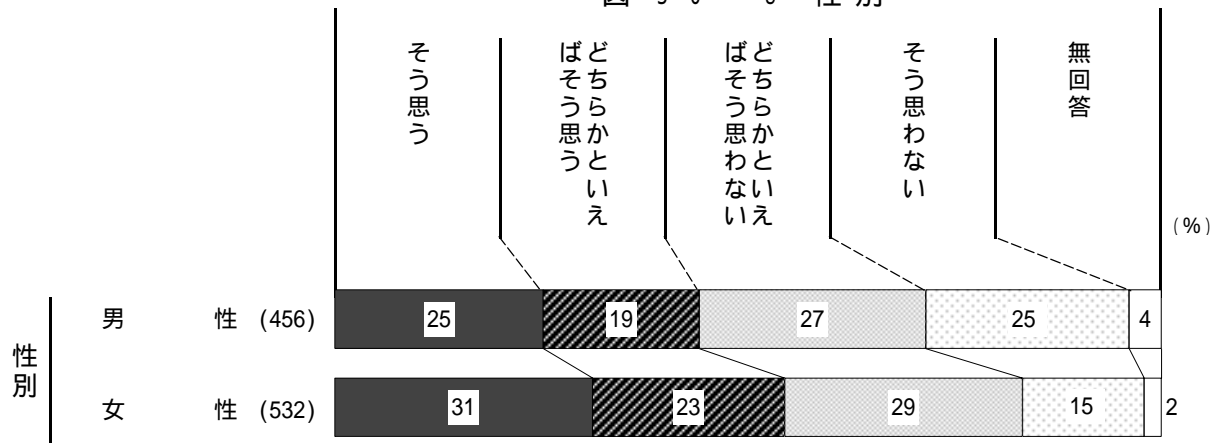
図 50 - 7 性・年齢別



性・年齢別では、男女とも60歳以上を除いてすべての性・年齢で そう思わない の割合が そう思う を上回っている。

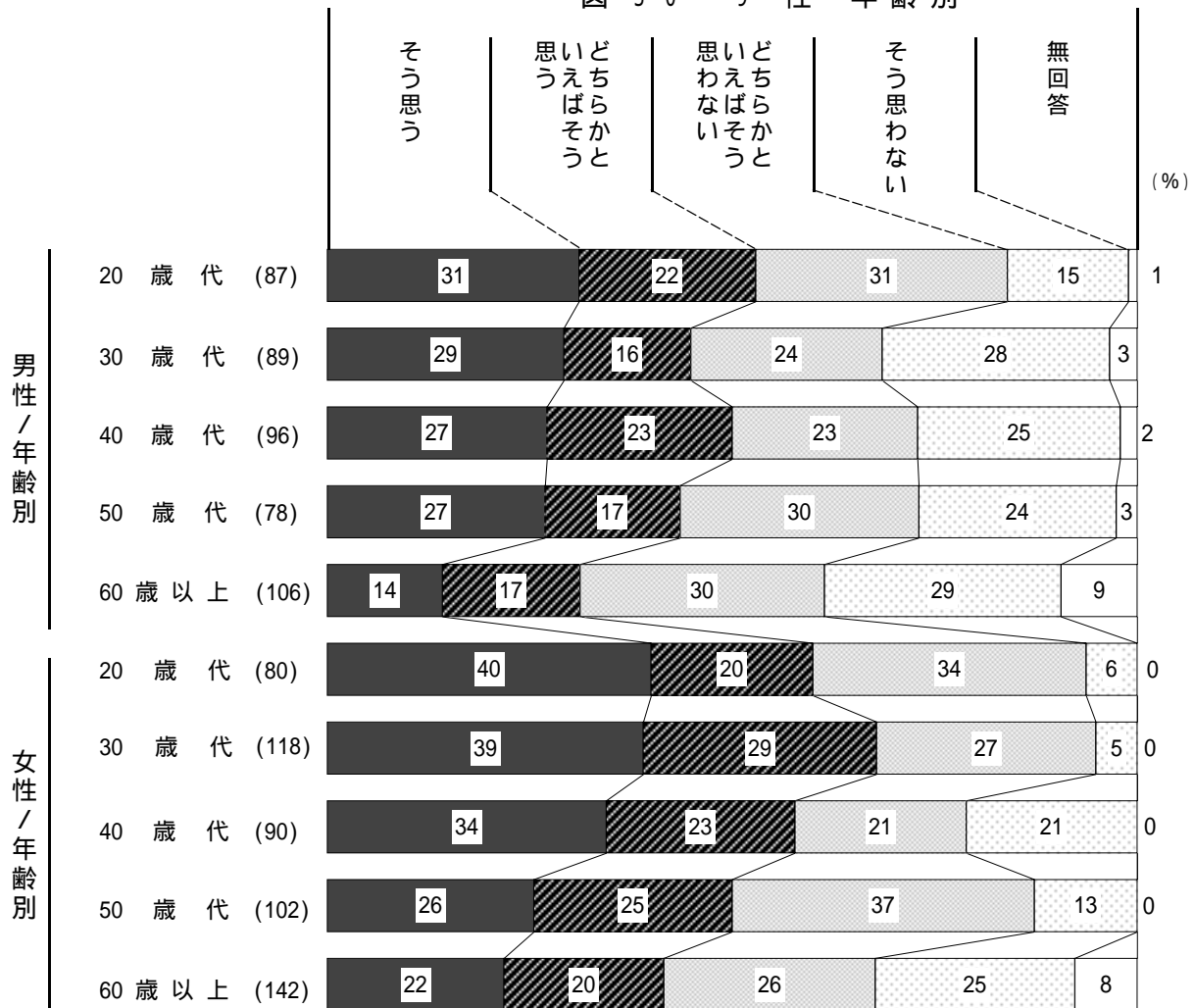
男女平等認識における考え方  
【 結婚しても必ずしも子どもを持つ必要はない 】

図 5 0 - 8 性別



性別では、男性は そう思わない の割合が そう思う よりも多く、女性は そう思う の割合が そう思わない より多くなっている。

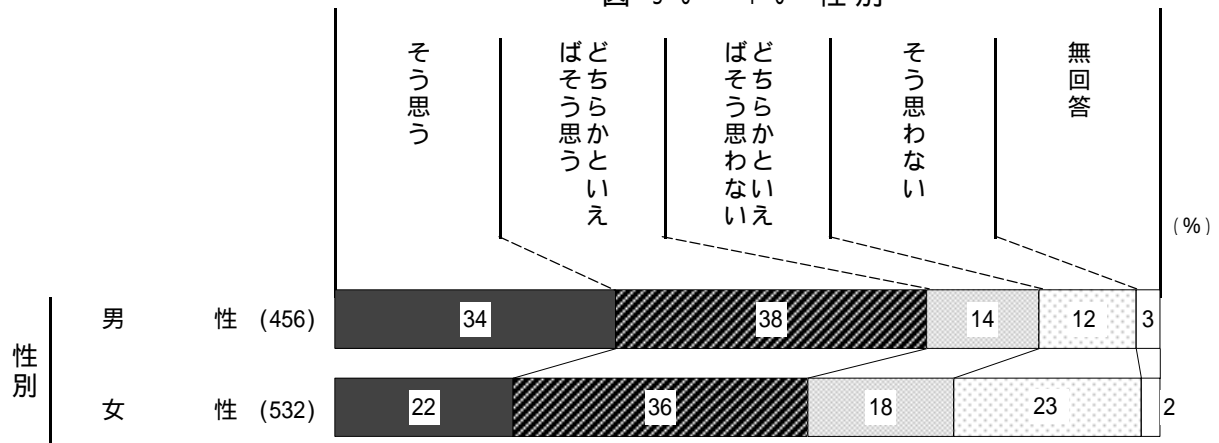
図 5 0 - 9 性・年齢別



性・年齢別では、男性20歳代、女性20歳から40歳代は そう思う の割合、男性30歳代、50歳から60歳以上、女性60歳以上は そう思わない の割合が多くなっている。

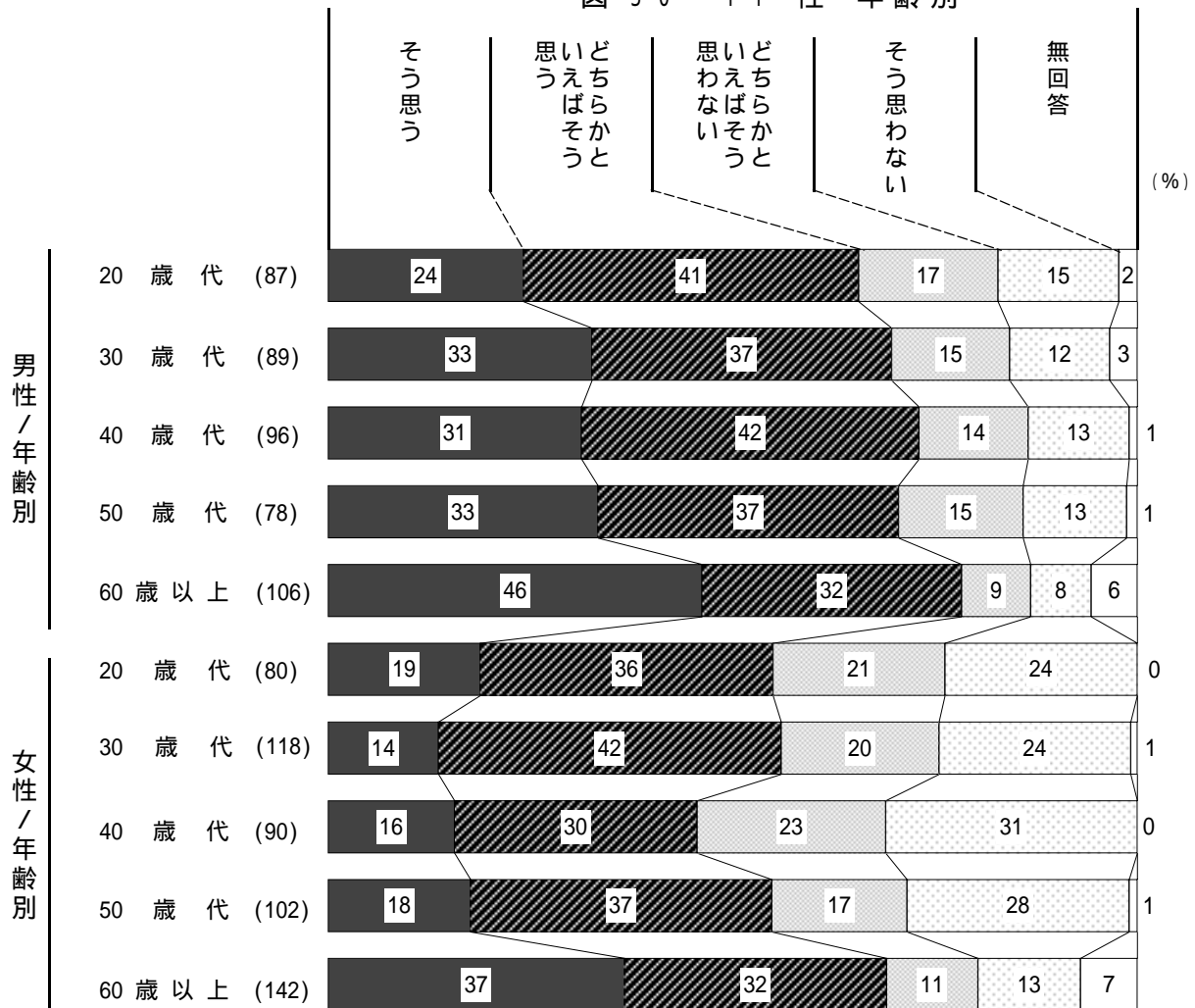
男女平等認識における考え方  
【 男の子は男らしく、女の子は女らしくしつけた方がよい 】

図 50 - 10 性別



性別では、男女ともに そう思う の割合が そう思わない より多くなっている。 そう思う の割合は男性の方が女性よりも多くなっている。

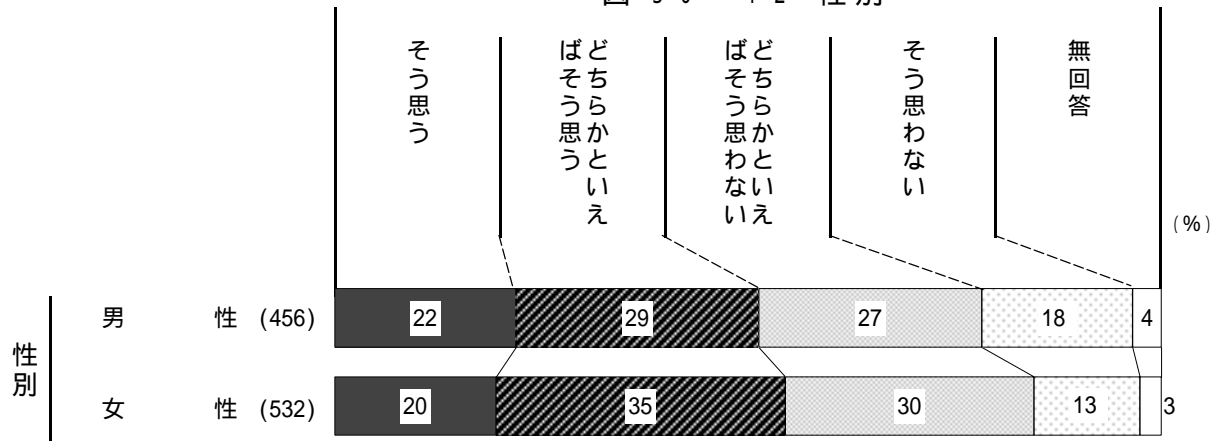
図 50 - 11 性・年齢別



性・年齢別では、女性40歳を除くすべての性・年齢で そう思う の割合が そう思わない より多くなっている。

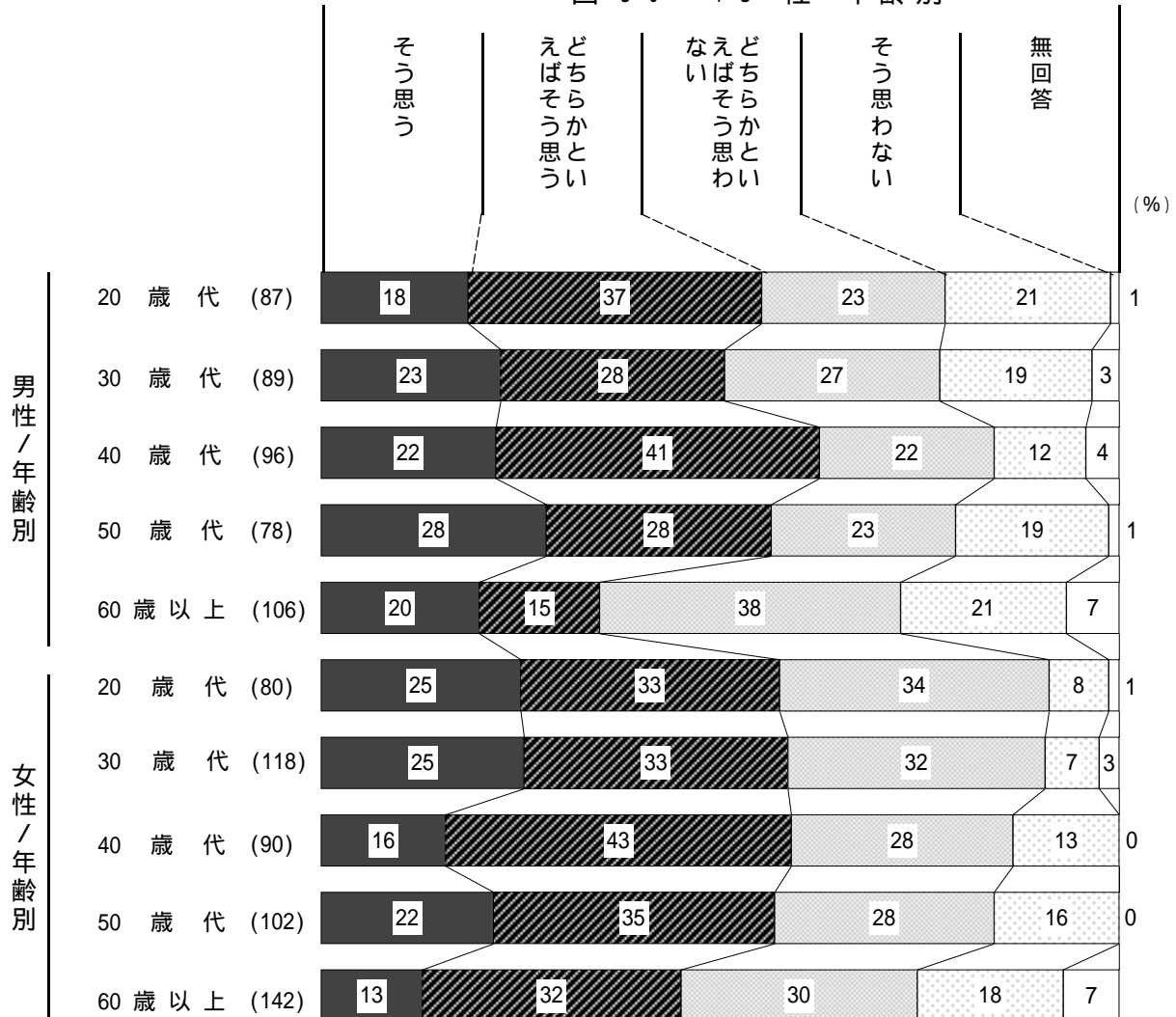
男女平等認識における考え方  
【結婚しても相手に満足できないときは離婚すればよい】

図 50 - 12 性別



性別では、男女とも そう思う の割合が そう思わない より多くなっている。

図 50 - 13 性・年齢別



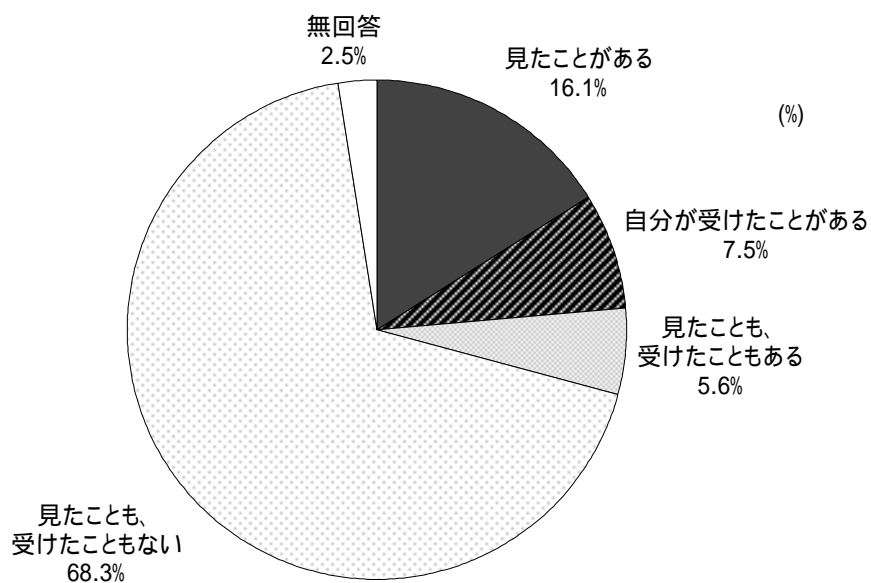
性・年齢別では、男女ともに60歳以上を除くすべての性・年齢で そう思う の割合が そう思わない より多くなっている。



## (6) セクシュアル・ハラスメントの被害状況

問56 あなたは、今までに職場や学校などでセクシュアル・ハラスメントの被害にあった、または見たことがありますか。(1つだけ)

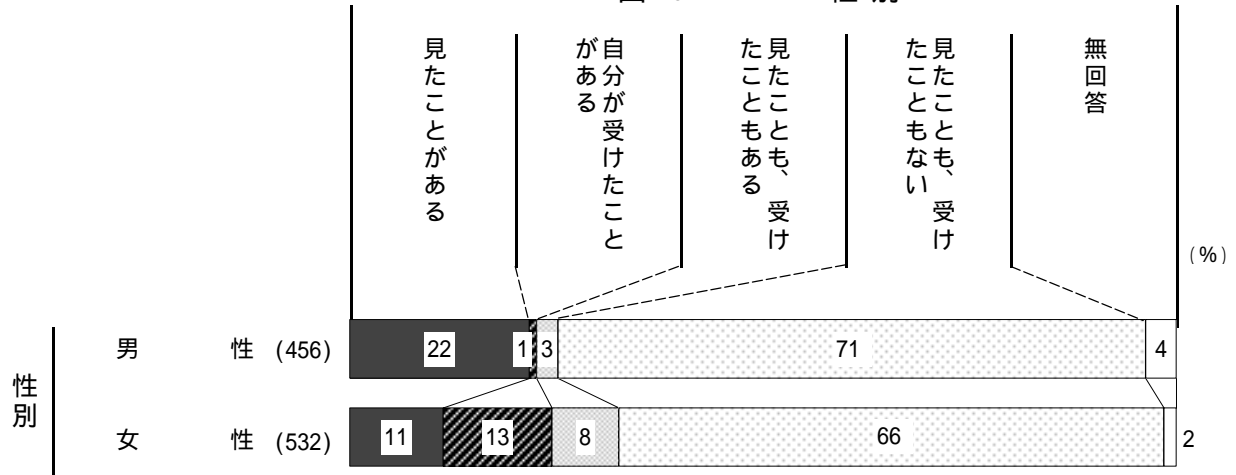
図 51 - 1



【全体 = 988】

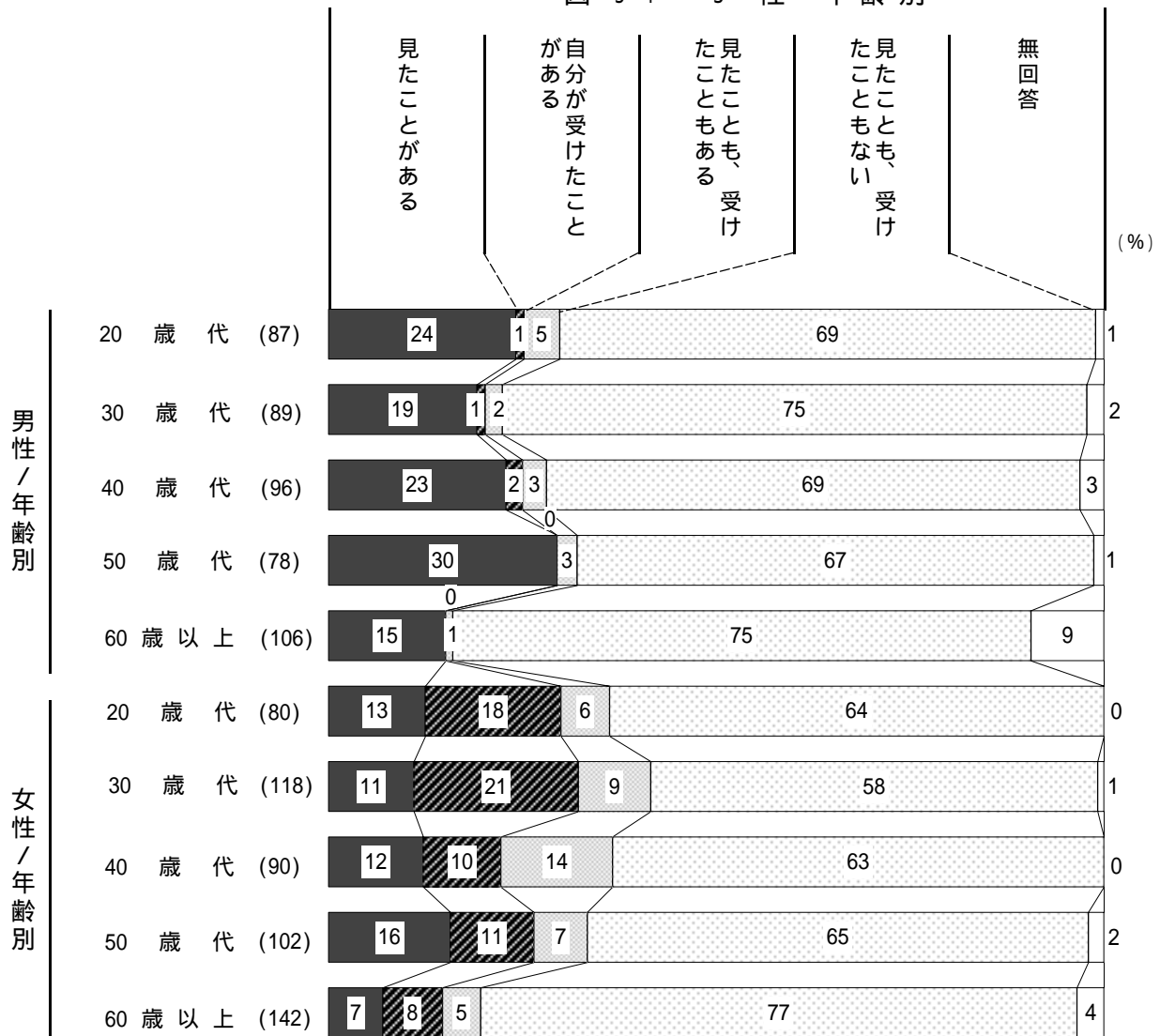
セクシュアル・ハラスメントの被害状況については、「見たことも受けたこともない」が68.3%で多数を占めている。「自分が受けたことがある」(7.5%)と「見たことも受けたこともある」(5.6%)を合わせた被害経験は13.1%となっている。

図 5 1 - 2 性別



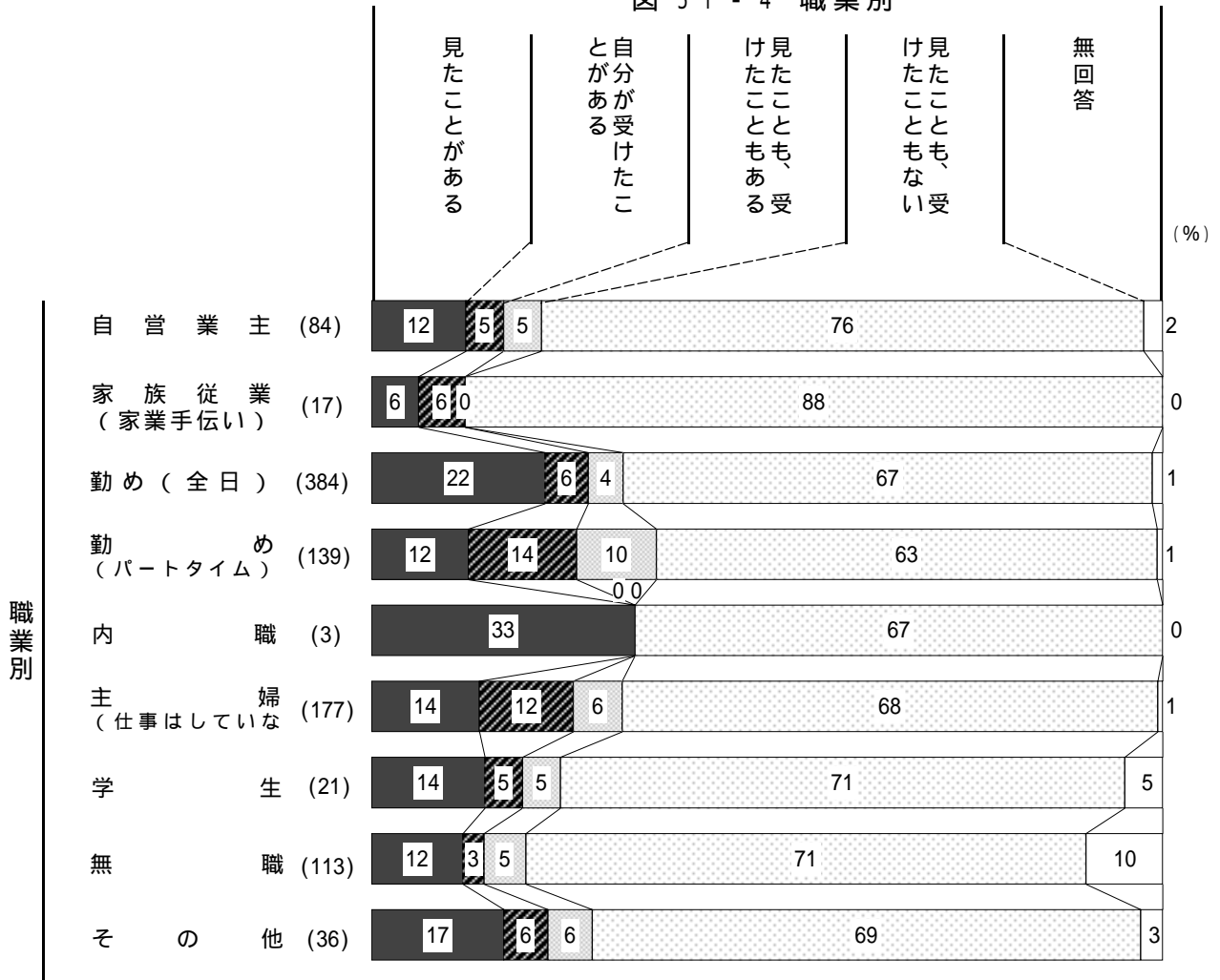
性別では、女性の被害経験は21%となっている。

図 5 1 - 3 性・年齢別



性・年齢別では、女性の20歳から40歳代で被害経験は20%を上回っている。

図 5 1 - 4 職業別



職業別では、勤め（パートタイム）の被害経験が24%で他の職業より多くなっている。

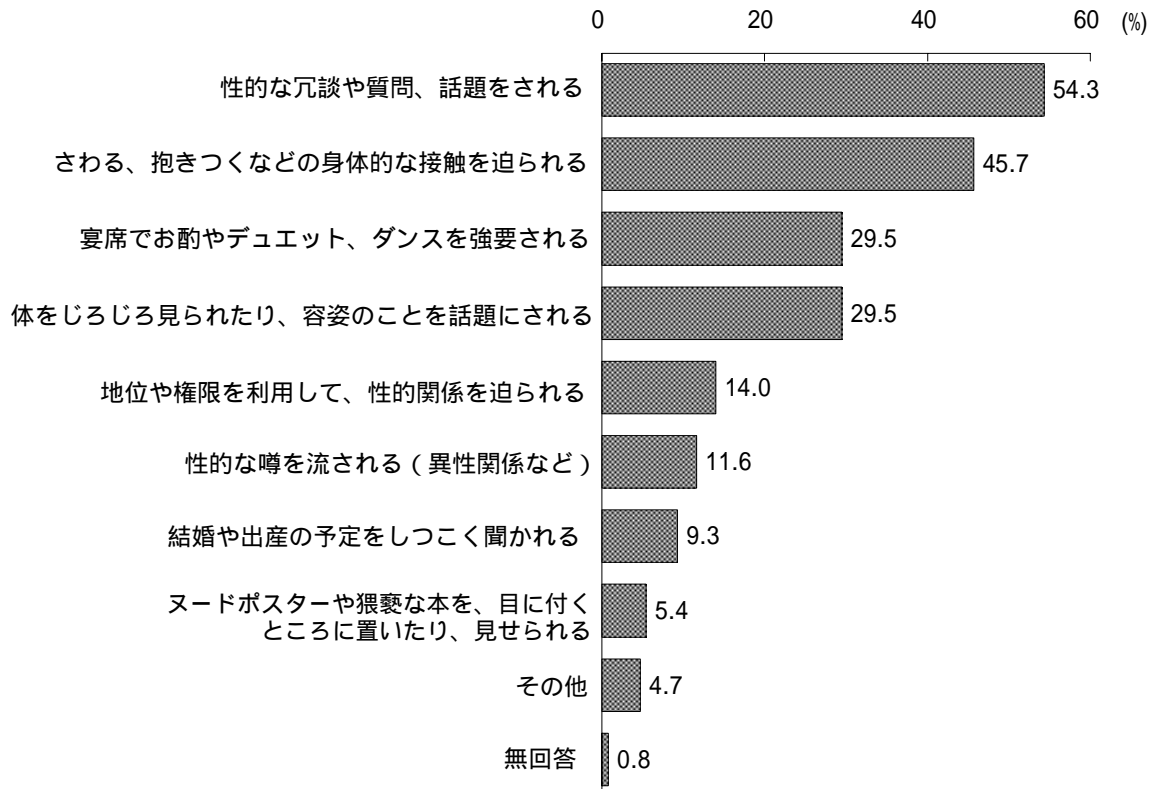
（印の記号は、サンプル数が少ないのでコメントを省略）

(6) - 1 被害にあったセクシュアル・ハラスメントの行為

(問56で2または3と答えた方に)

問56 - 1 あなたが受けたのは、どのような行為ですか。次の中からいくつでも選んでください。  
(いくつでも )

図 51 - 5



【全体 = 129】

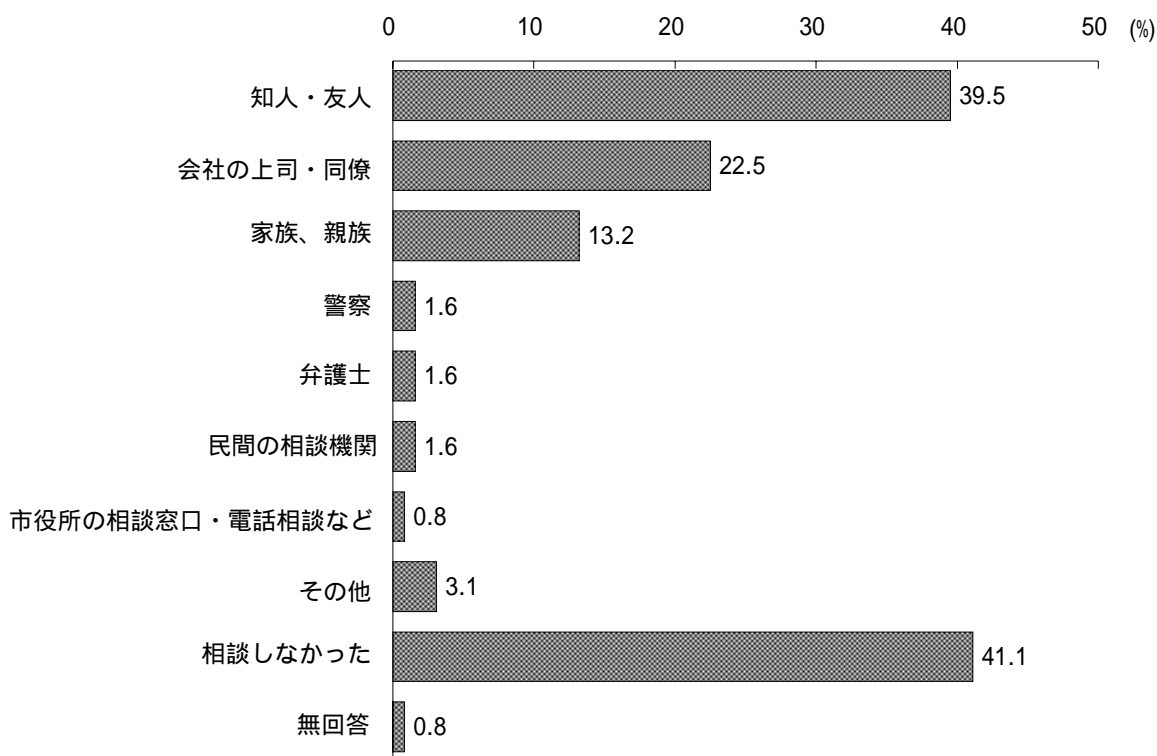
セクシュアル・ハラスメントの被害あった方にその行為をたずねたところ、「性的な冗談や質問、話題をされる」(54.3%)が最も多く、次いで「さわる、抱きつくなどの身体的な接触を迫られる」(45.7%)、「宴席でお酌やデュエット、ダンスを強要される」(29.5%)、「体をじろじろ見られたり、容姿のことを話題にされる」(29.5%)となっている。以下、「地位や権限を利用して、性的関係を迫られる」(14.0%)、「性的な噂を流される(異性関係など)」(11.6%)、「結婚や出産の予定をしつこく聞かれる」(9.3%)、「ヌードポスターや猥褻な本を、目に付くところに置いたり、見せられる」(5.4%)が続いている。

## (6) - 2 セクシュアル・ハラスメントを受けた時の相談相手

(問56で2または3と答えた方に)

問56 - 2 そのことを誰かに相談しましたか。次の中からいくつでも選んでください。  
(いくつでも)

図 51 - 6



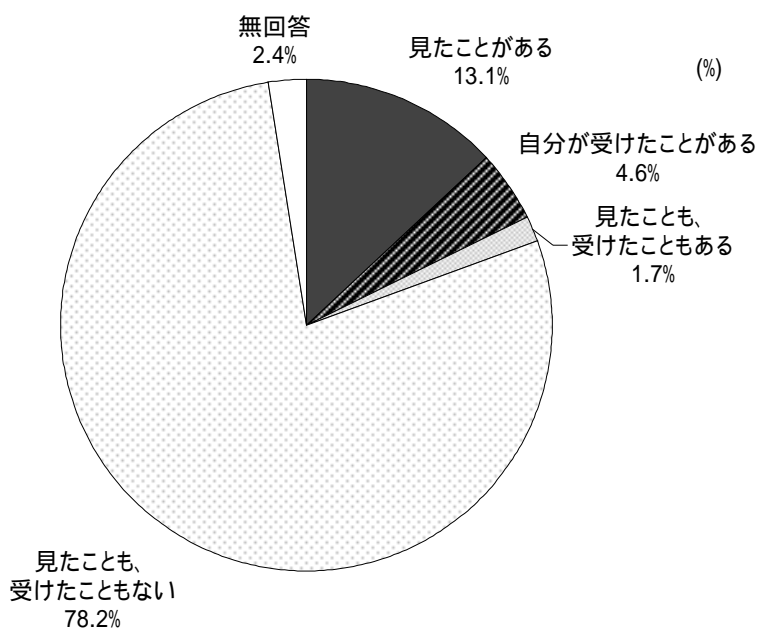
【全体 = 129】

セクシュアル・ハラスメントの被害あった方に相談相手をたずねたところ、「知人・友人」(39.5%)が最も多く、次いで「会社の上司・同僚」(22.5%)、「家族、親族」(13.2%)となっている。以下、「警察」(1.6%)、「弁護士」(1.6%)、「民間の相談機関」(1.6%)、「市役所の相談窓口・電話相談など」(0.8%)と続いている。一方、「相談しなかった」は41.1%となっている。

## (7) ドメスティック・バイオレンスの被害状況

問57 あなたは、今までにドメスティック・バイオレンスの被害にあった、または見たことがありますか。(1つだけ)

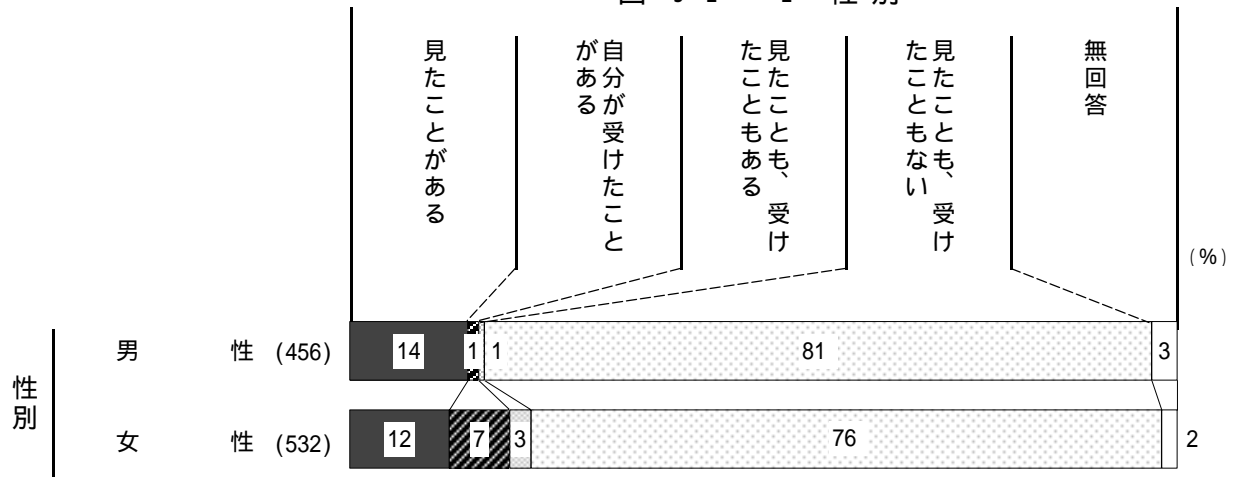
図 52 - 1



【全体 = 988】

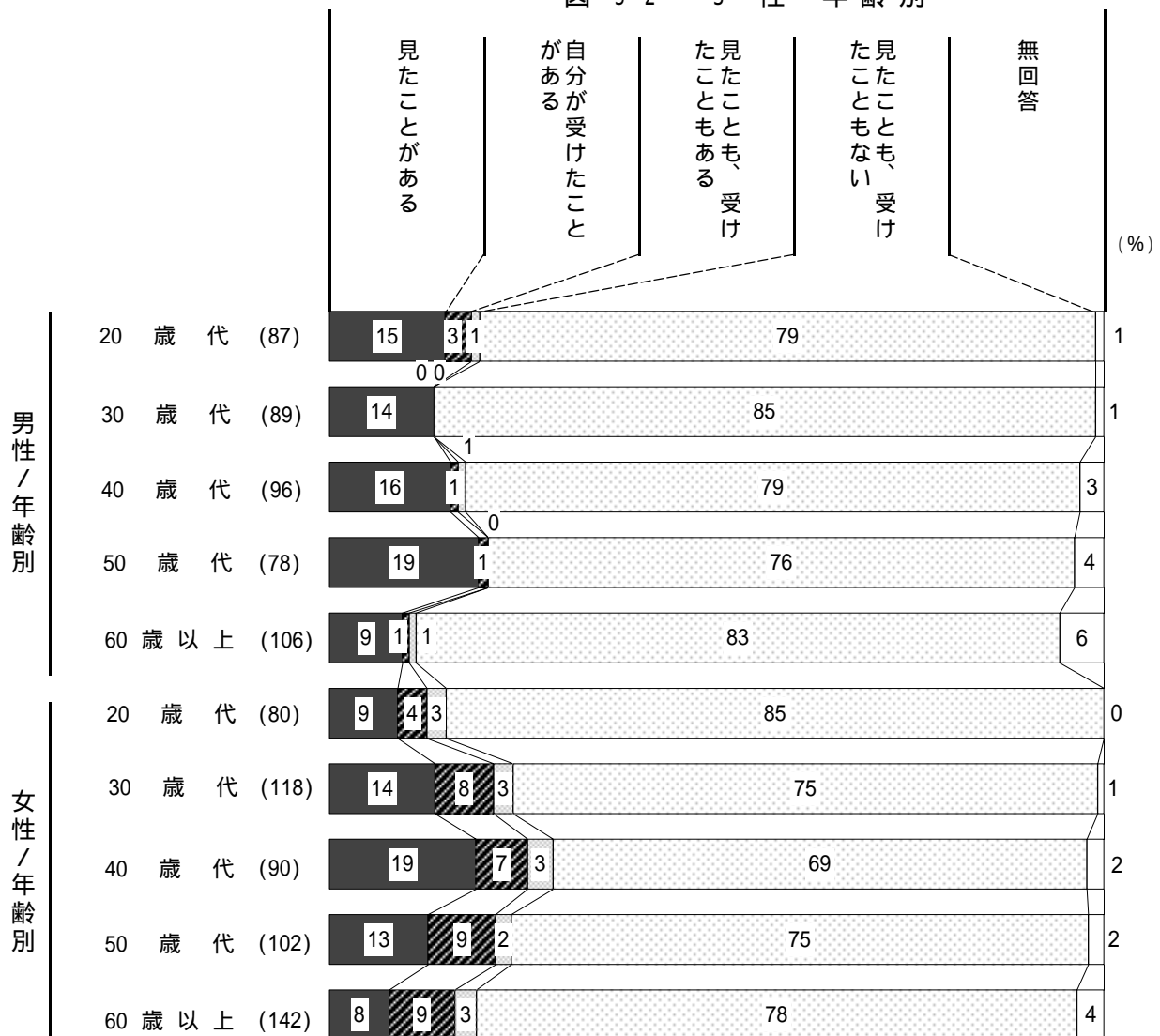
ドメスティック・バイオレンスの被害状況については、「見たことも受けたこともない」が78.2%で多数を占めている。「自分が受けたことがある」(4.6%)と「見たことも受けたこともある」(1.7%)を合わせた 被害経験 は6.3%となっている。

図 5 2 - 2 性別



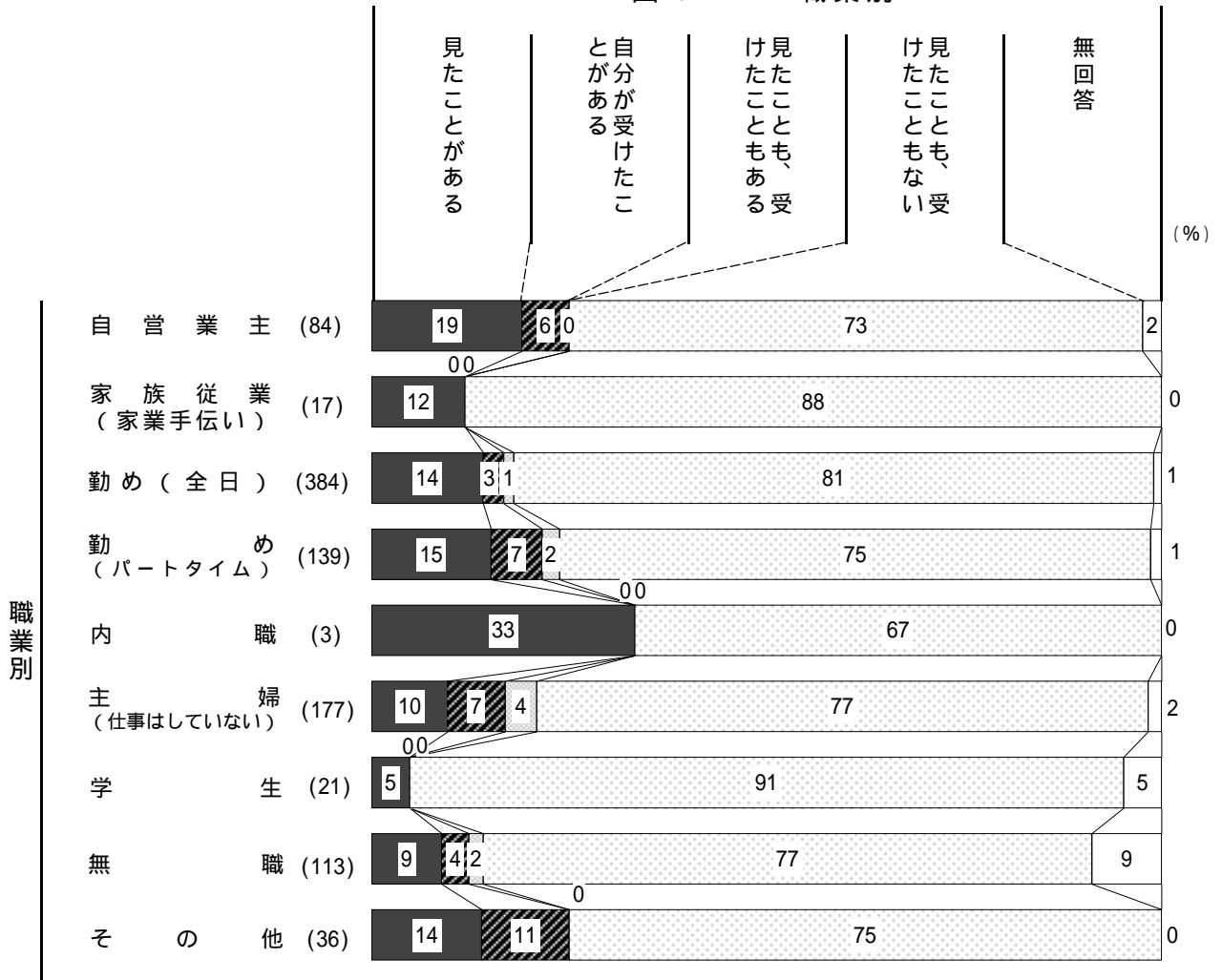
性別では、女性の10%が 被害経験 がある。

図 5 2 - 3 性・年齢別



性・年齢別では、女性の30歳から60歳以上で 被害経験 は約10%となっている。「見たことがある」は女性では、40歳代を頂点とした山型の分布となっている。

図 5 2 - 4 職業別



職業別では、主婦の被害経験が11%で他の職業より多くなっている。

(印の記号は、サンプル数が少ないのでコメントを省略)

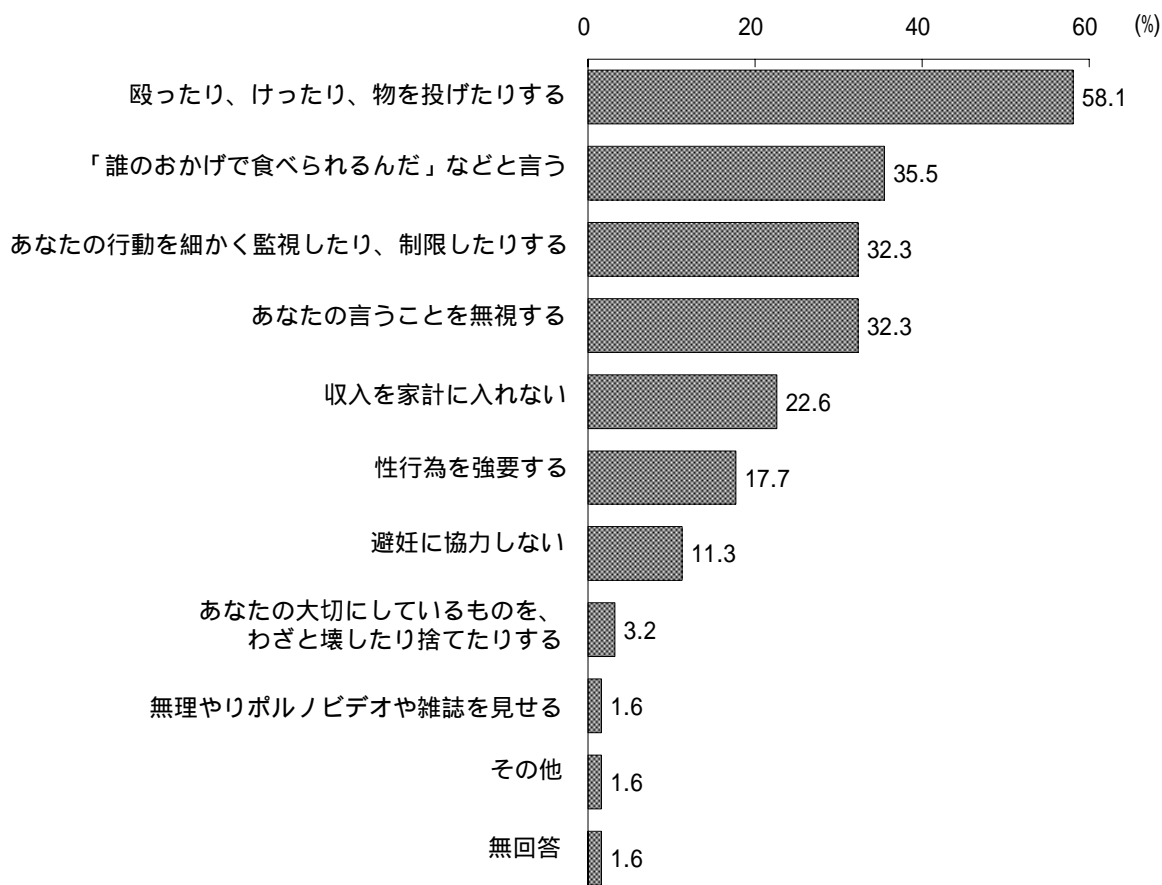


(7) - 1 被害にあったドメスティック・バイオレンスの行為

(問57で2または3と答えた方に)

問57-1 あなたが受けたのは、どのような行為ですか。次の中からいくつでも選んでください。  
(いくつでも)

図 52 - 5



【全体 = 62】

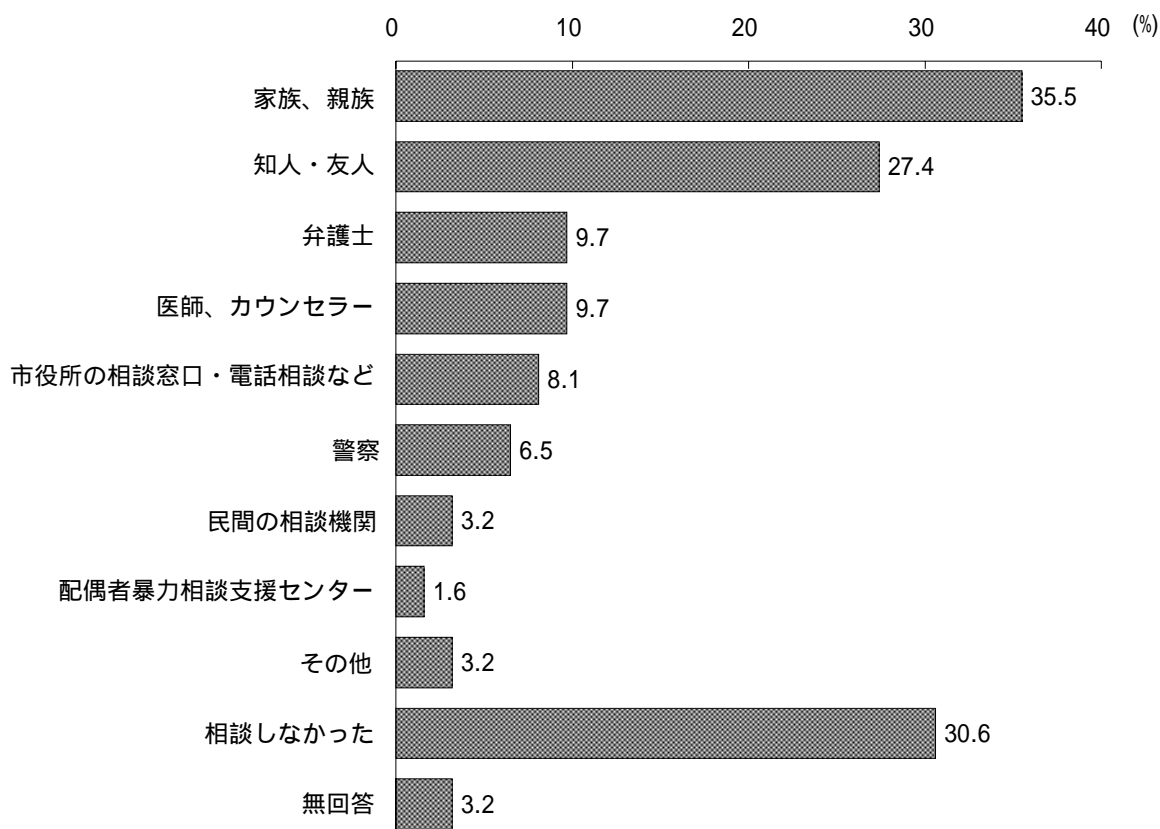
ドメスティック・バイオレンスの被害あった方にその行為をたずねたところ、「殴ったり、けったり、物を投げたりする」(58.1%)が最も多く、次いで「誰のおかげで食べられるんだなどと言う」(35.5%)、「あなたの行動を細かく監視したり、制限したりする」(32.3%)、「あなたの言うことを無視する」(32.3%)が僅差で続いている。以下、「収入を家計に入れない」(22.6%)、「避妊に協力しない」(11.3%)、「あなたの大切にしているものをわざと壊したり捨てたりする」(3.2%)、「無理やりポルノビデオや雑誌を見せられる」(1.6%)の順となっている。

## (7) - 2 ドメスティック・バイオレンスを受けた時の相談相手

(問57で2または3と答えた方に)

問57 - 2 そのことを誰かに相談しましたか。次の中からいくつでも選んでください。  
(いくつでも)

図 52 - 6



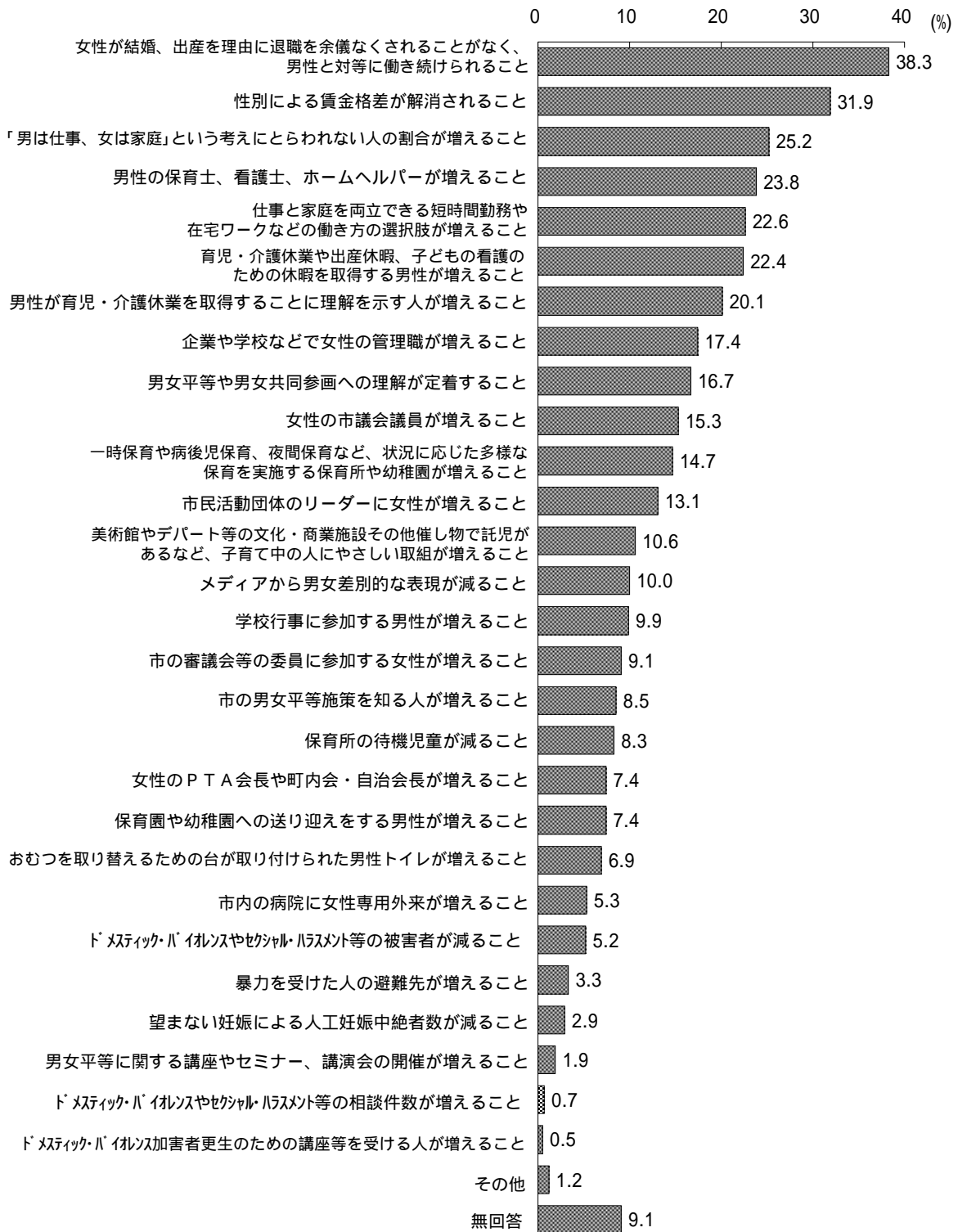
【全体 = 62】

ドメスティック・バイオレンスの被害あった方に相談相手をたずねたところ、「家族、親類」(35.5%)、「知人・友人」(27.4%)が上位となっている。以下、「弁護士」(9.7%)、「医師、カウンセラー」(9.7%)、「市役所の相談窓口・電話相談など」(8.1%)、「警察」(6.5%)、「民間の相談機関」(3.2%)、「配偶者暴力相談支援センター」(1.6%)の順となっている。また、「相談しなかった」は30.6%となっている。

( 8 ) 男女平等が進んだと実感できる指標

問58 川崎市において男女平等が進んだと実感できる指標(目安)として、分かりやすいと思うものを、次の中から5つまで選んでください。(5つまで )

図 53 - 1



【全体 = 988】

男女平等が進んだと実感できる指標をたずねたところ、「女性が結婚、出産を理由に退職を余儀なくされることがなく、男性と対等に働き続けられること」(38.3%)が最も多く、次いで「性別による賃金格差が解消されること」(31.9%)、「男は仕事、女は家庭という考えにとらわれない人の割合が増えること」(25.2%)となっている。以下、「男性の保育士、看護師、ホームヘルパーが増えること」(23.8%)、「仕事と家庭を両立できる短時間勤務や在宅ワークなどの働き方の選択肢が増えること」(22.6%)、「育児・介護休業や出産休暇、子どもの看護のための休暇を取得する男性が増えること」(22.4%)、「男性が育児・介護休業を取得することに理解を示す人が増えること」(20.1%)などと続いている。